

LIFE LIGHT LOVE

東北学院大学 大学院 2024

Graduate School of Tohoku Gakuin University

文学研究科

Division of Letters

経済学研究科

Division of Economics

経営学研究科

Division of Business Administration

法学研究科

Division of Law

工学研究科

Division of Engineering

人間情報学研究科

Division of Human Informatics



東北学院大学

ハイブリッド授業型大学院

東北学院大学学長 大西晴樹



現代の特徴について考えると、産業・技術の高度な発達の結果、社会における分業と交換の進展が加速化し、知識の専門化が著しく進行している時代だと言えます。このような時代だからこそ専門家を育て、社会人の学び直しのための大学院教育の重要性が注目されています。また、高学歴化が進み、学問的な動機付けも多様になっています。

このようなニーズに応えるために、本学大学院は学都仙台の中心という利便なキャンパスにあって、文学、経済学、経営学、法学、工学、人間情報学という6つの研究科を擁し、広い領域を網羅しています。また、複数の入試制度のほか、社会人の学びにも対応した昼夜開講制やハイブリッド型授業（対面授業と遠隔授業の併用）、長期履修制度、科目等履修生制度などを設け、学部から学びを直接継続する学部生にも、大学卒業後一定期間を置きながらも仕事に従事する中で専門的知識の必要性を痛感する社会人にも、「カルチャーセンター」での学びでは満たされない市民にも、すべてに門戸を開いているのが本学大学院の特長です。

本学大学院は“ハイブリッド授業型大学院”を標榜します。それぞれの教授から直接対面で指導を受け、志を同じくする研究科の仲間と切磋琢磨し、修士論文や博士論文に取り組むことが基本になりますが、それ以外にもオンラインでの講義や演習も併用し、多忙な社会人の受講にも配慮します。講義や演習では、対面とZoomの併用や大型電子黒板と話者追尾型カメラを備えたハイブリッド型授業用教室を活用して、指導教授の修士論文、博士論文指導の授業の半分程度は対面授業であること以外、遠隔授業で単位を履修することが可能となっています。

また、長期履修制度についていえば、これは職業を有する方や、大学卒業後3年以上を経過している方（定年退職者を含む）や育児や介護などで研究時間の制約を受ける方などを対象に、入学時の就業環境に応じて在学年限の範囲内（博士課程前期4年、博士課程後期6年）で、指導教授と相談のうえ、1年単位で長期履修期間を定めることができる制度です。在籍期間が長期化しても授業料の総額はそれぞれ必要とされる在籍期間（博士課程前期2年、博士課程後期3年）の授業料となり、履修期間に応じて、授業料を分割払いすることができるメリットがあります。詳しくは、ホームページと募集要項を参照してください。



キリスト教に基づく人間教育という建学の精神の上に、高度な専門知識を研究活動という調査能力、思考能力、発表能力の涵養を通じて身に付け、税理士や公認心理師、データサイエンティスト、中学校・高等学校教諭専修免許状などの資格取得も視野に入れ、現代社会が直面する様々な課題に大学院で取り組んでいただきたいと思います。

本大学院の組織図



教育目的

本大学院は、キリスト教による人格教育を基礎として、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて広く文化の進展に寄与することを目的としています。

課程の目的

博士前期(修士)課程は、広い視野に立った精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業などに必要な高度の能力を養うことを目的としています。

博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。



東北学院大学学長挨拶・組織図・ 教育目的・課程の目的 P1	経済学研究科 P11・P12 経済学専攻	工学研究科 P23・P24 環境建設工学専攻
目次・ 社会人の受入れ P2	経営学研究科 P13・P14 経営学専攻	人間情報学研究科 P25・P26 人間情報学専攻
教学上の3つの方針 P3・P4	法学研究科 P15・P16 法学専攻	最近の主な進路(就職)・修業年限及び 最長在学年限・課程の修了要件 P27
文学研究科 P5・P6 英語英文学専攻	工学研究科 P17・P18 機械工学専攻	授業(昼夜開講制)・学位 P28
文学研究科 P7・P8 ヨーロッパ文化史専攻	工学研究科 P19・P20 電気工学専攻	教育職員免許状の取得・ 学生支援 P29
文学研究科 P9・P10 アジア文化史専攻	工学研究科 P21・P22 電子工学専攻	奨学金制度・沿革 P30
		キャンパス所在地MAP

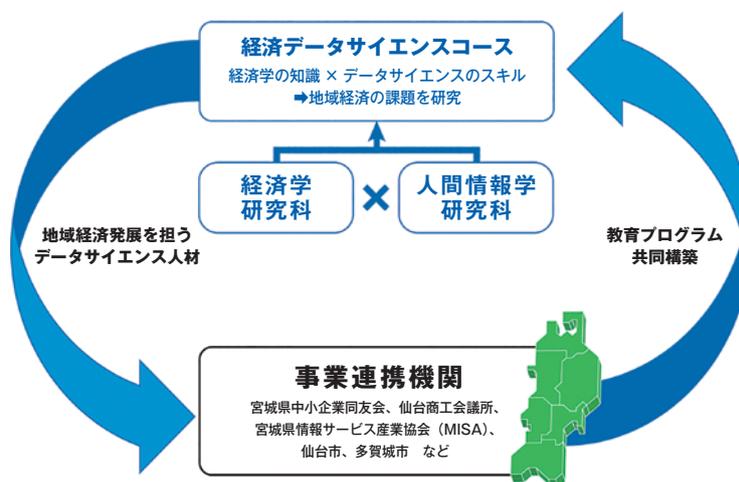
「東北の地域経済発展を担うデータサイエンス人材育成事業」が 文部科学省「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」に 選定されました

東北学院大学の「東北の地域経済発展を担うデータサイエンス人材育成事業」は、文部科学省の「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Xプログラム～」の公募において、全国から選定された6校の中の1校となりました。

本事業にて、大学院経済学研究科経済学専攻にデータサイエンス系科目を組み込んだ「経済データサイエンスコース」を設置構想中です。経済データサイエンスコースでは、経済学をベースに、データサイエンスの知識・スキルを身に付けたうえで、地域経済の課題を取り上げて研究します。経済学で扱う個人・企業・政府の意思決定に関する知識とデータサイエンスの分析手法を組み合わせることで、地域経済をより深く理解します。これにより、持続可能な地域活性化の実現に貢献することを目的としています。

本事業では、(1) 経済学とデータサイエンスの知識とスキルを持つ高度人材育成のための教育プログラム開発、(2) 地元経済界を支える企業・自治体に参加する経済学教育実施体制の構築、(3) 地域経済界をテーマとする実践的な演習の実施、(4) 地域経済界から入学者を直接募集し地域に還元する枠組みおよびデータサイエンス人材が活躍できる土壌の構築の4つを行い、地域が必要とする高度人材を地域と協働で育成します。

経済学研究科経済学専攻：経済データサイエンスコース(計画)



2025年4月設置構想中。設置計画は予定であり、内容は今後変更になる可能性があります。

教学上の3つの方針

博士前期課程

[学位授与の方針]

文学研究科は、博士前期課程において、所定の履修細則に従って30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で提出した修士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「修士(文学)」の学位を授与する。

1. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する。
2. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する。
3. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する学術研究の遂行および成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

[教育課程編成・実施の方針]

文学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1を達成することを主たる目的として、「基礎科目」または「選択必修科目」を置く。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果1、2を達成することを主たる目的として、英語英文学専攻では提携した他大学院の授業科目の中から選択履修することができるものとし、10単位を限度として課程修了に必要な単位として認める。ヨーロッパ文化史及びアジア文化史専攻では、相互に選択履修することができるものとし、4単位を限度として課程修了に必要な単位として認める。
3. 学位授与の方針に定めた学修成果2、3を達成することを主たる目的として、コースワーク科目とリサーチワーク科目をバランス良く置き、必要な研究指導を行う。
4. 本課程が目的とする人材養成の多様性に対応するため、複数教員による指導体制を採る。

[入学受け入れの方針]

文学研究科は、次の点を確認することにより、博士前期課程への入学を受け入れる。

1. 次の(1)~(3)の人材養成及び再教育という、この課程の目的に合致する入学志望動機と研究課題を有する。
 - (1)英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する高度な専門知識を生かした職業人(教員、学芸員など)
 - (2)英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する高度な専門知識を有する社会人
 - (3)英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史を専門とする研究者
2. この課程における学修に必要な水準の一般的学力(外国語を含む)を有する。
3. この課程における高度な専門知識を有する社会人。

博士後期課程

[学位授与の方針]

文学研究科は、博士後期課程において、所定の履修細則に従って12単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で提出した博士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「博士(文学)」の学位を授与する。

1. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有する。
2. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有する。
3. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する学術研究の継続的遂行及び成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

[教育課程編成・実施の方針]

文学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1、2を達成することを主たる目的として、「演習」Ⅰ~Ⅳを置き、必修とする。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、「論文指導」Ⅰ・Ⅱを置き必修するとともに、研究指導を行う。

[入学受け入れの方針]

文学研究科は、次の点を確認することにより、博士後期課程への入学を受け入れる。

1. 英語英文学、ヨーロッパ文化史またはアジア文化史に関する研究者の養成という、この課程の目的に合致する入学志望動機と研究課題を有する。
2. この課程における学修に必要な、高い水準の一般的学力(外国語を含む)を有する。
3. この課程における学修に必要な高度に専門的な知識を有する。
4. 研究課題に関して、専門的で学術的な価値のある知見を有する。

博士前期課程

[学位授与の方針]

経済学研究科は、博士前期課程において、所定の履修方法に従って32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した修士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果を達成した者に、「修士(経済学)」の学位を授与する。

1. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有すること。
2. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有すること。
3. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有すること。
4. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する学術研究の遂行および成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること。

[教育課程編成・実施の方針]

経済学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1及び2を達成することを主たる目的として、1年次に選択必修科目として「研究科基礎」科目を置くとともに、研究科講義科目として「経済理論」科目、「応用経済」科目、「歴史」科目を置く。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、1年次から「研究科演習」科目を置くとともに、必要な研究指導を行う。
3. 学位授与の方針に定めた学修成果4を達成することを主たる目的として、1年次の「研究科演習」科目に加えて2年次の「研究科論文指導」によって必要な研究指導を行い、指導教員以外の教員からも助言を受けるために修士論文の「中間報告会」を設ける。

[入学受け入れの方針]

経済学研究科は、次の方針により、博士前期課程への入学を受け入れる。

1. 本課程の学修に必要な経済学(経済理論・応用経済・歴史)の一定の基礎学力と明確な研究計画を有していること。
2. 本課程の学修において必要な専門知識や研究能力を身につけたいと考えている意欲を有すること。
3. これまでの社会経験をもとに学問研究を深めることによって社会貢献を志したいという目標をもっていること。

博士後期課程

[学位授与の方針]

経済学研究科は、博士後期課程において、所定の履修方法に従って12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した博士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果を達成した者に、「博士(経済学)」の学位を授与する。

1. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有すること。
2. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有すること。
3. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する学術研究の継続的遂行および成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること。

[教育課程編成・実施の方針]

経済学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1及び2を達成することを主たる目的として、「経済学特別演習A」及び「経済学特別演習B」を置き、必修とする。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、「論文指導」を置き必修するとともに、研究指導を行う。

[入学受け入れの方針]

経済学研究科は、次の点を確認することにより、博士後期課程への入学を受け入れる。

1. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する研究者を目指すという明確な目標と研究課題を有すること。
2. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する高度な専門的な知識を有すること。
3. 経済学(経済理論・応用経済・歴史)に関する研究課題に関して、専門的で学術的な価値のある知見を有すること。

修士課程

[学位授与の方針]

経営学研究科は、修士課程において、所定の履修細則に従って30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した修士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「修士(経営学)」の学位を授与する。

1. 経営学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する。
2. 経営学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する。
3. 経営学に関する学術研究の遂行及び成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

[教育課程編成・実施の方針]

経営学研究科は、修士課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1を達成することを主たる目的として、1年次に「一般講義」並びに「応用講義」を置く。

2. 学位授与の方針に定めた学修成果2並びに3を達成することを主たる目的として、1年次から「演習」を置くとともに、必要な研究指導を行う。

[入学受け入れの方針]

経営学研究科は、次の点を確認することにより、修士課程への入学を受け入れる。

1. 次の(1)~(3)の人材養成及び再教育という、この課程の目的に合致する入学志望動機と研究課題を有する。
 - (1)経営に関する専門職業人(公認会計士、税理士など)
 - (2)経営に関する高度な専門知識を有する社会人(公務員、企業人、教員、団体職員など)
 - (3)経営学に関する研究者
2. この課程における学修に必要な水準の一般的学力を有する。
3. この課程における学修に必要な水準の経営学に関する専門知識を有する。

博士前期課程

【学位授与の方針】

法学研究科は、博士前期課程において、所定の履修細則に従って30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した修士論文またはそれに代わる学修成果の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「修士(法学)」の学位を授与する。

1. 法学または政治学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する。
2. 法学または政治学に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有する。
3. 法学または政治学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する。
4. 法学または政治学に関する学術研究の遂行および成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

法学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1を達成することを主たる目的として、1年前期に「一般講義」、1年後期から「応用講義」を置く。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果2を達成することを主たる目的として、「特定テーマ研究」を置く。
3. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、1年後期から「演習」を置くとともに、必要な研究指導を行う。
4. 学位授与の方針に定めた学修成果4を達成することを主たる目的として、「導入科目」を1年前期に置き必修とするとともに、必要な研究指導を行う。
5. 本課程が目的とする人材養成の多様性に対応するため、複数の履修コースを設け、それぞれ異なる修了要件とする。

【入学者受け入れの方針】

法学研究科は、次の点を確認することにより、博士前期課程への入学者を受け入れる。

1. 次の(1)~(4)の人材養成及び再教育という、この課程の目的に合致する入学志望動機と研究課題を有する。
 - (1)法または政治に関する専門職業人(税理士、司法書士、社会保険労務士、行政書士など)
 - (2)法または政治に関する高度な専門知識を生かした職業人(公務員、企業人、教員、団体職員など)
 - (3)法または政治に関する高度な専門知識を有する社会人
 - (4)法または政治に関する研究者
2. この課程における学修に必要な水準の一般の学力を有する。
3. この課程における学修に必要な水準の、法学または政治学に関する専門知識を有する。

博士後期課程

【学位授与の方針】

法学研究科は、博士後期課程において、所定の履修細則に従って12単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した博士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「博士(法学)」の学位を授与する。

1. 法学または政治学に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有する。
2. 法学または政治学に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有する。
3. 法学または政治学に関する学術研究の継続的遂行および成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

法学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1及び2を達成することを主たる目的として、「法律学演習Ⅰ」及び「法律学演習Ⅱ」を置き、必修とする。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、「論文指導」を置き必修とするとともに、研究指導を行う。

【入学者受け入れの方針】

法学研究科は、次の点を確認することにより、博士後期課程への入学者を受け入れる。

1. 法または政治に関する研究者の養成という、この課程の目的に合致する入学志望動機と研究課題を有する。
2. この課程における学修に必要な、高い水準の一般の学力(外国語を含む)を有する。
3. この課程における学修に必要な、法学または政治学に関する高度に専門的な知識を有する。
4. 研究課題に関して、専門的で学術的価値のある知見を有する。

博士前期課程

【学位授与の方針】

工学研究科は、博士前期課程において、所定の履修細則に従って32単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した修士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「修士(工学)」の学位を授与する。

1. 工学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する。
2. 工学に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有する。
3. 工学に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する。
4. 工学に関する学術研究の遂行及び成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

工学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1を達成することを主たる目的として、専攻別の科目を置くほか、関連科目として他専攻の科目の履修も可能とする。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果2、3を達成することを主たる目的として、「工学修士研修」及び「工学特別演習」を置き、必要な研究指導を行う。
3. 学位授与の方針に定めた学修成果4を達成することを主たる目的として、「修士論文」を課すほか、「技術経営特論」及び「知的財産特論」を置き、いずれか1科目を必修とする。

【入学者受け入れの方針】

工学研究科は、次の点を確認することにより、博士前期課程への入学者を受け入れる。

1. 専門分野を学ぶための基礎学力と柔軟な思考能力及び自主的に学ぶ姿勢を有する。
2. 専門分野の将来的な社会の変化、科学技術の進展に強く関わる情熱を持ち、自ら問題を見出し、解決しようとする意欲を有する。
3. 専門知識と洞察力を身につけ、国際的視野のもとに社会の発展に貢献したい意思を有する。

博士後期課程

【学位授与の方針】

工学研究科は、博士後期課程において、所定の履修細則に従って16単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した博士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「博士(工学)」の学位を授与する。

1. 工学に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有する。
2. 工学に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有する。
3. 工学に関する学術研究の継続的遂行及び成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意識を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

工学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1を達成することを主たる目的として、学際基盤科目を修得する。また、「技術経営特論」及び「知的財産特論」について、前期課程で修得していない場合、いずれか1科目を必修とする。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果2を達成することを主たる目的として、「工学博士研修」を置き必修とする。また「インターンシップ研修」、「工学特別研修」及び「工学特別実習」を置く。
3. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、「博士論文」を課し、必要な研究指導を行う。

【入学者受け入れの方針】

工学研究科は、次の点を確認することにより、博士後期課程への入学者を受け入れる。

1. 工学に関する研究者の養成という、この課程の目的に合致する入学志望動機と研究課題を有する。
2. この課程における学修に必要な、高い水準の一般の学力(外国語を含む)を有する。
3. この課程における学修に必要な、工学に関する高度に専門的な知識を有する。
4. 研究課題に関して、専門的で学術的価値のある知見を有する。

博士前期課程

【学位授与の方針】

人間情報学研究科は、博士前期課程において、所定の履修方法に従って30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した修士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「修士(学術)」の学位を授与する。

1. 人間情報学にかかわる専門的知識を有する。
2. 学術的および実社会の問題を学際的視野から捉える態度・能力を有する。
3. 学術的および実社会の問題の解決に貢献できる研究能力を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

人間情報学研究科は、博士前期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1を達成することを主たる目的として、コア学科目群として社会情報学、行動情報学、生命・情報学の3領域の専門科目群を置き、そのうち1つをメジャー領域として選択させる。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果2を達成することを主たる目的として、幅広い学問領域から構成される基礎学科学科目群を置くとともに、上記のメジャー領域以外の領域からも科目を選択させる。
3. 学位授与の方針に定めた学修成果3を達成することを主たる目的として、1年および2年次に「人間情報学演習」を置き必修とするとともに、必要な研究指導を行う。併せて学修成果2を達成するため、専門の異なる複数の教員による演習指導を実施する。

【入学者受け入れの方針】

人間情報学研究科は、本研究科の理念・目的を理解していることを基本的要件とし、さらに次の点を考慮して入学者を広く受け入れる。

1. 大学院での学修に必要な能力(問題探究力、文献解読力、論理的思考力、作文・表現能力、コミュニケーション能力)をもっていること。
2. 研究科での専攻分野について基礎的な知識をもっていること。
3. 研究科の教育内容をよく理解した上で、本研究科での学修を強く望んでいること。

博士後期課程

【学位授与の方針】

人間情報学研究科は、博士後期課程において、所定の履修方法に従って12単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで提出した博士論文の審査及び最終試験によって、次の学修成果が確認できた者に、「博士(学術)」の学位を授与する。

1. 人間情報学にかかわる高度で幅広い知識を有する。
2. 学術的および実社会の問題を独創的視点から捉える態度・能力を有する。
3. 学術的および実社会の問題の解決に貢献できる自立した研究能力を有する。

【教育課程編成・実施の方針】

人間情報学研究科は、博士後期課程において、学位授与の方針に定めた学修成果を達成するため、次の方針により、体系的・順次的な教育課程を編成・実施する。

1. 学位授与の方針に定めた学修成果1及び2を達成することを主たる目的として、「人間情報学演習Ⅲ」及び「人間情報学演習Ⅳ」を置き、必修とする。
2. 学位授与の方針に定めた学修成果2及び3を達成することを主たる目的として、「論文指導」を置き必修とするとともに、研究指導を行う。

【入学者受け入れの方針】

人間情報学研究科は、本研究科の理念・目的を理解していることを基本的要件とし、さらに次の点も考慮して入学者を広く受け入れる。

1. 大学院での学修に必要な高い水準の能力(問題探究力、文献解読力、論理的思考力、作文・表現能力、コミュニケーション能力)をもっていること。
2. 研究科での専攻分野について専門的な知識をもっていること。
3. 研究科の教育内容をよく理解した上で、本研究科での学修を強く望んでいること。

英語英文学専攻

英米文学、英語学、言語学、英語教育学、応用言語学研究の最先端へ

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

英米文学、英語学・言語学、英語教育学・応用言語学の3つの領域について学べる体制をとっています。英米文学については、中世・ルネサンス文学、近・現代詩、近・現代小説、批評理論、英語学・言語学については、言語理論、音韻論、統語論、英語教育学・応用言語学については、第二言語習得理論及び異文化間コミュニケーション研究に、優れたスタッフを擁しています。

青山学院大学、上智大学、立教大学等の在京11の私立大学と単位互換を含む研究・教育上の提携も行っていきます。

修了後の進路は、前期2年の課程修了者の多くは公私立中学・高等学校の英語教員に、後期3年の課程修了者の多くは国公私立大学・高専等の教員になっています。

理念・目的

主として英米文学や英語学に関わる先端的理論を含む多様な知見の修得および厳密な原典読解を通し、独創的な研究活動の涵養を目指すとともに、教員をはじめとした専門的職業人として社会に貢献できる人材の育成に努める。

教育目標

- ①複数教員による指導体制を採りながら、英米文学、英語学・言語学、英語教育学・応用言語学の分野に関わる多様な研究の紹介や最新の理論の分析などを通じて、創造性豊かな専門的研究能力を育成する。
- ②原典の精密な読解や分析を通して、語学力および論理的分析力や構想力を涵養する。
- ③オリジナリティー溢れる研究成果の積極的発表の奨励など、専門的研究分野への学問的貢献を促す。
- ④英米文学、英語学・言語学、英語教育学・応用言語学に関わる専門教育等において、地域社会への貢献を果たしうる人材を育成する。
- ⑤国際的コミュニケーション能力を備え、グローバルな場で活躍しうる人材を育成する。

大学院生からのコメント

英語英文学専攻
博士後期課程1年

たんの かいせい
丹野 海晴 さん



大学院は、各学問領域に応じて自ら課題を見出し、探求する場です。研究は地道で孤独な営為であり、時には思うように進まないこともあります。不安に思うことはありません。東北学院大学大学院では、先生方をはじめとして、多くのスタッフが学生生活、そして研究生活を手助けしてくださいます。

英語英文学専攻では、各々の専門分野の授業とは別に、研究の手法や心構え、学会での研究発表の仕方、論文の執筆方法など、研究の基礎となる授業が開講されています。また、長期休暇の際には他大学の先生方をお招きし、様々な分野の集中講義を受講することもできます。大学院ならではの少人数制の授業では、教員、大学院生を問わず、活発な議論が行なわれます。その他にも、大学院生が自主的に行なう読書会や、他大学との合同研究発表会などの機会を刺戟として、論文の執筆ができるのです。

大学院生には、専用の合同研究室が与えられています。英語英文学専攻合同研究室には、各個人専用のデスクと書棚があり、研究に集中できる設備が整っています。行き詰ったときは研究室の仲間と語らうのも良いでしょう。そこから思わぬヒントが得られるかもしれません。

様々な研究テーマを持つ先生方や大学院生とともに学ぶことができるこの環境で、私たちは日々、研究を重ねています！

大学院生からのコメント

英語英文学専攻
博士前期課程2年

ちば ひかる
千葉 輝 さん



私は理論言語学の中の統語論という分野を専攻しています。生成文法理論では統語部門は意味を決定する部門と音韻的諸特性を決定する部門に対して出力される文の階層的構造を構築していると仮定されています。英語のデータを中心に観察し、その背後にある抽象的構造に関して仮説を立て、考察するという科学的な手法で研究を進めています。大学院の授業は学部までの授業とは異なり、少人数で行われ、教員と受講者間の議論が中心になります。本専攻には私の専門である統語論以外にも音韻論や形態論などの他の分野を専門にされている先生方がいらっしゃるの、言語学一般に関して幅広く学ぶことができます。研究の成果を発表する機会にも恵まれており、本学も加盟する大学院英文学専攻課程協議会主催の研究発表会で他大学の院生や先生方に自らの研究に関して口頭発表を行ったり、本専攻が発行する機関誌に論文を掲載することもできます。学会に出席する際には国内外を問わず旅費の補助も出ます。また、研究だけでなく、ティーチングアシスタントとして学部の授業のお手伝いをするのも院生の大事な仕事の一つです。修了後、教壇に立つ際にはきっとこの経験が役立つことになるでしょう。本学は院生をサポートするための環境が整っています。本学で学び、ご自身の研究を深めていただければと思います。



研究領域／研究分野

英米文学領域

- 詩分野：Chaucer, Spenser, Shakespeare, Metaphysical Poets (Donne, Herbert, Marvell), Milton, Romanticism (Coleridge, Wordsworth, Keats, Shelley, Blake), Yeats, Ted Hughes, American Poets (Dickinson, Plath) など
- 演劇分野：Shakespeare, Marlowe, Ben Jonson, Beaumont & Fletcher, Wilder など
- 小説分野：Aphra Behn, Defoe, Swift, Fielding, Richardson, Sterne, Jane Austen, Dickens, Hardy, Joyce, William Golding, Kazuo Ishiguro, Melville, Hawthorne, Dreiser, Faulkner, Hemingway, Fitzgerald, Salinger, Alice Walker など
- 研究方法：Deconstruction, New Historicism, Narratology, Postcolonialism, Feminism, Psychoanalytic Criticism, Reader-Response など

英語学・言語学領域

生成文法理論に基づく英語の統語構造および音韻構造の諸特性、さらには、その史的変遷の特徴づけの研究。個々の具体的トピックは、その時々理論的枠組みによって異なるので、一つひとつ列挙することはできませんが、どのような現象・理論の問題でも研究対象として設定することができます。



英語教育学・応用言語学領域

英語教育について科学的に研究を深める英語教育学及びことばに関わる諸研究分野を統合しながら言語の応用的側面について研究する応用言語学を専門領域として学ぶことができます。第二言語習得、異文化間コミュニケーションについても高度な専門的研究ができます。

担当教員・研究テーマ

■初期近代イギリス演劇 石橋 敬太郎
イスラム演劇

■現代イギリス小説 植松 靖夫
歴史・社会・思想を主軸として19世紀以降のイギリス小説の研究

■17世紀イギリス演劇 福士 航
演劇における「他者」の表象

■英語学・言語学 大石 正幸
言語理論

■英語学・言語学 大沼 仁美
音韻論

■英語学・言語学 豊島 孝之
言語理論・形態論・統語論・意味論

■英語学・言語学 那須川 訓也
音韻論・形態論

大沼 仁美

豊島 孝之

那須川 訓也

■英語学・言語学 バックレイ フィリップ
音韻論・音韻史

■英語教育学・応用言語学 村野 井仁
第二言語習得研究。特にフォーカス・オン・フォームが第二言語認知プロセスに及ぼす効果について

■英語教育学 吉村 富美子
英文のリーディングとライティングの教育

ヨーロッパ文化史専攻

キリスト教を基盤とした
ヨーロッパの歴史的な展開を研究

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

本専攻は、研究者養成とともに、教員、公務員など社会の多方面で活躍し得る高度の専門的知識・能力を有する人材の養成を目的として、1997（平成9）年4月に修士課程（定員5名）が、1999（平成11）年4月には博士後期課程（定員2名）が順次開設されました。本専攻は、昼夜開講制をとっており働きながら学べるよう、社会人にも配慮しています。これまで大学教員はじめ多くの人材を世に送り出してきました。

本専攻は、古代地中海世界から近現代世界にいたるヨーロッパの歴史的な形成・発展をキリスト教思想の歴史的形成・展開との諸関係において解明しようとするところに大きな特色があります。

両者の関係は極めて複雑であり、高度な専門研究をもってはじめて追求できるものです。西洋史領域においては、中世ヨーロッパ、近世ヨーロッパ、近現代ヨーロッパまでグローバルな世界史研究を可能としています。他方、キリスト教史領域においても国家や社会を支えたキリスト教の教義や思想の発展、キリスト教美術史など、古代から現代まで時代に即した研究を可能としています。

理念・目的

きめ細かな少人数教育によって、キリスト教を基盤とするヨーロッパ文化を歴史的に考究し高度の専門的知識を修得することを基本理念とし、これによって、グローバル化した現代世界についての確かな判断と能力を持った人材を養成する。

教育目標

- ①複数教員による指導体制のもと、一次史料に基づいたヨーロッパの文化と歴史に関する学際的な研究方法と知識を修得させる。
- ②演習・論文指導等を通じて、主体的に独創的な問題設定と問題解決能力を向上させる。
- ③研究成果を国内外の学会や学術誌に発表することを促し、グローバルな研究意識を高める。
- ④グローバル・スタンダードの教養を身につかせ、多様な分野で活躍できる専門的職業人を育成する。

教員からのメッセージ

ヨーロッパ文化史専攻主任

かわしま けんじ
川島 堅二 教授



本専攻は、西洋史領域とキリスト教史領域からなり、西洋史領域では、古代ギリシア・ローマ、中世・近世・近現代ヨーロッパにアメリカを加えて、グローバルな世界史研究が、キリスト教史領域においては、ヨーロッパの文化・社会の根底にあるキリスト教の教義や思想について、古代から近現代まで、それぞれの時代に即した研究ができることが特色です。ギリシア・ローマの高度な古典文化とキリスト教の長い影響のもとに成立したヨーロッパ文化は、今なお私たちの関心を引いてやまない魅力にあふれています。今日まで残された文献資料を紐解いてみれば、そこから新たな問題が浮かび上がり、私たちが探求と発見の旅へといざなってくれることでしょう。大学院の授業は学位論文執筆のための専門的な演習が中心ですが、それだけでなくもっと一般的に現代社会の問題と切り結び形でヨーロッパの歴史や思想文化史の授業も用意されています。研究する喜びを共に分かち合いましょう。

修了生からのコメント

ヨーロッパ文化史専攻
博士課程後期課程修了

はらだ ももこ
原田 桃子 さん

現米子工業高等専門学校講師



私は第二次世界大戦以降のイギリスの移民政策史、特に入国管理政策を研究しています。第二次世界大戦後、イギリスへ旧植民地からの移民が大量に流入しますが、あらゆる場での差別や住宅不足と重なり彼らの入国が社会問題として扱われます。この社会問題に対するイギリス政府の対応策は彼らの入国規制と社会統合という二面政策でした。このようなイギリスの政策は、国際移民に対する姿勢のあり方を考える上で非常に参考になると考えています。

大学院で研究する面白さは、様々な分野の人と交流できることだと思います。大学院では、自分の専門研究の他にも様々な分野を学ぶことができ、様々な先生方からご意見をいただく機会があります。研究室は様々な時代、地域、分野の院生と合同で使っていることから、自身の専門分野を飛び越えた意見を聞くことができ、大いに刺激になります。こうした交流を大事にしなが、さらに研究を深めていきたいと思っています。



研究領域／研究分野

西洋史領域

- 中世ヨーロッパ史
- 近世ヨーロッパ史
- 近代ヨーロッパ史
- 現代ヨーロッパ史

キリスト教史領域

- 旧約聖書学
- 新約聖書学
- 初期キリスト教史
- 近・現代キリスト教の文化と思想
- キリスト教美術史



担当教員・研究テーマ

■中世ヨーロッパ史 櫻井 康人
中世ヨーロッパにおけるキリスト教と十字軍の研究

■近世ヨーロッパ史 楠 義彦
近世ヨーロッパにおける国家と社会の研究

■近代ヨーロッパ史 杵淵 文夫
近代ヨーロッパ諸国の経済と通商政策の研究

■近・現代ヨーロッパ史 渡辺 昭一
世界システムとイギリス帝国の研究

■旧約聖書学 田島 卓
旧約聖書成立史及び哲学的解釈

■新約聖書学 吉田 新
新約聖書の歴史的・心理学的研究

渡辺 昭一

田島 卓

吉田 新

■近・現代キリスト教の文化と思想 川島 堅二
近・現代キリスト教思想及び宗教概念の変容の研究

アジア文化史専攻

アジアの歴史と文化を学際的に研究

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

グローバル化の進む今日、アジアは注目を集めています。本専攻では、日本史・アジア史・考古学・民俗学の各分野の第一線で活躍する研究者の指導の下、地域研究を重視しつつも、学際的かつ国家や民族を超えた広い視野から、アジアの歴史と文化について学ぶことができます。中国や韓国の大学等から客員教授を招聘し、国際的な環境の中で学べる点も、魅力の一つです。

また、自らの研究課題を究めることはもちろんですが、大学博物館では、学芸研究員として、展示作成・展示解説・史料整理などの実務を経験し、実績を積むことができます。2012年度からは文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として本学アジア流域文化研究所が取り組む『新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト』の一環として、国内だけでなく、中国や韓国、ロシア等でも、文書調査や発掘調査、民俗調査のフィールドワークの機会が設けられてきました。これらを経験することで、実践力・応用力を兼ね備えた、高度の専門的知識・能力を有する人材の育成にも力を入れています。

本専攻の修了者は、東北地方を中心に、全国の博物館学芸員や教育委員会の文化財担当職員、教員となり、広く社会で活躍しています。

理念・目的

日本とアジア各地の歴史と文化について、地域研究を重視しながら、国家や民族を越えた広い視野に立って深く思考し、学際的かつ高度な研究ができる人材を養成する。

教育目標

- ①複数教員による指導体制の下、日本とアジア各地の歴史と文化に関する先端的で高度な研究方法と知識を修得させながら、専門的で学際的な研究能力を養成する。
- ②日本とアジア各地での原典調査と実地調査の実践を促し、独創的な問題設定と独自の問題解決能力を修得させる。
- ③研究成果を国内外の学会や学術誌で積極的に発表することを奨励し、グローバルな研究意識を向上させる。
- ④歴史と文化に関する高度で専門的な教育と研究に関わる地域社会の多様な分野で活躍しうる人材を育成する。
- ⑤博士後期課程においては、国際的に通用しうる研究能力を涵養し、日本やアジア各地の教育や研究等で指導的役割を果たしうる専門的職業人の養成を重視する。

教員からのメッセージ

アジア文化史専攻主任
内陸アジア史

おぬま たかひろ
小沼 孝博 教授



アジア文化史専攻では、先行きの見えない今の時代にも対応すべく、多様なものの見方・考え方ができ、社会的にも実践可能なカリキュラムを設けています。

まず、第1に重視したのが、一次資料と徹底的に向き合う姿勢の修得です。基礎科目として「資料論」を置いているのは、そのためです。そこから読み取れる情報がきわめて多様であることを学び、新たな発見、研究視角に結び付けてもらえればと思っています。

また、複数教員による集団指導を採用している点も挙げておきたいと思います。同じ研究対象であっても、歴史学と考古学・民俗学、また日本史と中国史では捉え方が違います。このような学際的なアドバイスは、きっとみなさんの視野を広めてくれるでしょう。

このほか、大学博物館の学芸研究員として、研究成果を社会に還元する訓練の場も設けています。

一次資料に徹底的に向き合い、そこから多角的な情報を引き出し、従来の枠組みを越えて、自らの研究を深めていく。と同時に、社会に還元する方法も身につける。みなさんも、私たちとともに、このような環境の中で、自らの研究を深めてみませんか。

大学院生からのコメント

アジア文化史専攻
博士課程後期課程3年

まがら ゆき
真柄 侑さん



私の専攻は民俗学です。現在は岩手県紫波町をフィールドに、人が地域に暮らし「はたらく」ということの意味について明らかにすることで、従来の学問的理解やイメージを問い直すことをテーマに研究しています。また、宮城県大崎市や仙台市での共同研究にも参加してきましたが、調査報告書の作成を通して、データの検証や、読み手を考慮した執筆の方法などに向き合えたことは、大きな糧となっています。

大学院での授業は、学部の授業よりもぐっと深く各分野の研究に触れることができます。研究室を出て、自分の身体を使って研究対象に迫る経験や、国内だけではなく中国などの国外に赴き、現地の方々と交流しながらその国の歴史や暮らしの背景を学べたことは、様々な視点からものを考えるきっかけとなりました。

さらに大学博物館においては、学芸研究員として専門的に業務に携わることができます。私自身、授業で整理した資料を展示にまとめ、図録として報告するという、授業と博物館が一体となった活動をおこなうことができました。

研究をかたちにしていく過程で得るものが大きいと日々感じます。これらをエネルギーに、研究をより深めていければと思います。



大学博物館で所蔵資料の整理作業

研究領域／研究分野

- 日本史：古代・中世・近世・近現代史
- アジア史：中国史、内陸アジア史、東南アジア史
- 考古学：アジア考古学、日本考古学
- 民俗学：日本民俗学・比較民俗学



中国・重慶市武隆博物館で資料調査



福島県喜多方市で灰塚山古墳の発掘調査



宮城県名取市で海岸林の現状を調査



大学博物館でワークショップを開催

担当教員・研究テーマ

■ 日本古代史

古代交通史、東北古代史

永田 英明

■ 日本中世史

主従制、東国史など

七海 雅人

■ 日本中世史・近世史

中近世移行期東国史、織豊政権論、城郭史など

竹井 英文

■ 日本近現代史

日本と東南アジアの国際関係史、大東亜共栄圏をめぐる諸問題

河西 晃祐

■ 中国古代・中世史

中国の国制史・家族史・ジェンダー史・礼制史

下倉 渉

■ 内陸アジア近世・近代史

新疆地域の政治と社会、遊牧民とオアシス定住民の関係

小沼 孝博

■ 東南アジア近世・近代史

阮朝治下ベトナムの社会経済史、フランスによるインドシナの植民地統治

多賀 良寛

■ アジア考古学

アジアの先史文化、東アジアの古代都市・寺院・瓦作りの比較研究

佐川 正敏

■ 民俗学

民俗の実践とその意義に関する研究、民俗概念の再検討

政岡 伸洋

■ 環境民俗学

村落社会に置ける環境史・災害史、民俗から見た生活意識研究

金子 祥之

経済学専攻

専門分野における研究者、および調査・研究のエキスパートを養成

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

本専攻の教育は、専攻分野に関する深い研究能力や、高度な専門性が要求される職業に対応できる能力の育成を目標としています。また、広い学識に裏づけられた独創性に富む、とりわけ東北に密着したリーダーの育成も目指しています。そのため、研究・教育課程は、経済学の理論、歴史、応用経済、政策という幅広い分野で、複数教員（主指導教員・副指導教員）による研究指導体制という形をとっています。

本専攻の大学院生には「多様性」という特徴があります。出身大学は国内外と多彩で、しかも社会人も加わって幅広い年齢層の学生がいます。これまでの前期課程修了者の主な進路は、後期課程への進学のほか、高校教員、公務員、一般企業への就職などです。後期課程修了者の場合は、大学教員、公務員などが主な進路となっています。

また、本専攻では海外からの留学生の受け入れを積極的に進め、国際的ないしグローバルな視点から新たなネットワークの構築を目指しています。

理念・目的

- ①グローバル化、情報化、知識集約化が進み、さらにその進展・流動化が進行し不確実化も予想される環境のもとで人間の基本的な経済活動を合目的的に実現していくための理論と応用を学ぶとともに発展させ、社会に役立てる。
- ②経済学に関する冷静な思考とアーキテクチャーを考究・習熟することにより、人類・社会の発展と福祉に寄与する。

教育目標

- ①理論、政策、歴史、および数量分析手法に関するカリキュラムを通して、国内外における大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。
- ②経営学研究科経営学専攻と連携して、税理士、中小企業診断士、経営コンサルタント、ファイナンシャル・プランナー、および事業主を養成する。
- ③海外から研究者や留学生の受け入れも積極的に進め、姉妹校、提携校を軸に、欧米、アジア、オセアニアとのつながりを急速に深めつつ、グローバルな視点での国際的な共同研究および教育を行う。
- ④「開かれた大学院」として、「経済研究所」、「地域総合研究所」、および「経営研究所」と共同で、オープン・カレッジ、各種シンポジウム、公開学術講演会などを定期的で開催し、地域と連携した社会教育にも貢献するとともに、変化する時代を読みとるよう努める。

教員からのメッセージ

国際経済論特論Ⅰ・Ⅱ担当 **倉田 洋** 教授



現在の経済社会では、グローバル化の進展や情報通信技術の急激な進歩など、目まぐるしい変化が起っています。また、現在の経済社会は経済格差の拡大、人口減少・高齢化など、多くの問題を抱えています。こうした社会においては、変化に対応でき、問題を発見・解決できる人材の重要性が高まっていると考えられます。大学院はそのような力を育むことができる場所です。

大学院では、学部よりも一歩進んだ「学び」が行われます。学部で学んだ知識よりも深い専門的知識を勉強するというだけでなく、自分自身で課題を発見し、その課題に取り組むために必要な調査を行い、実際に分析を行う、というより実践的な「学び」の姿がそこにはあります。

本学大学院経済学研究科では、豊富な経験と高度な専門知識を備えた多くのスタッフが、大学院生の研究活動をサポートします。一連の研究活動を通じて、問題解決力に富む人材、信頼される指導力と実行力を持つ人材、および地域経済の推進力となって活躍する人材の育成を目指しています。大学院修了生は、大学教員や研究員だけでなく、公務員や教員、民間企業など、さまざまな職種で力を発揮しています。

これからの経済社会で大いに活躍できる人材になりたいと考えている皆さんのご入学を、心よりお待ちしております。

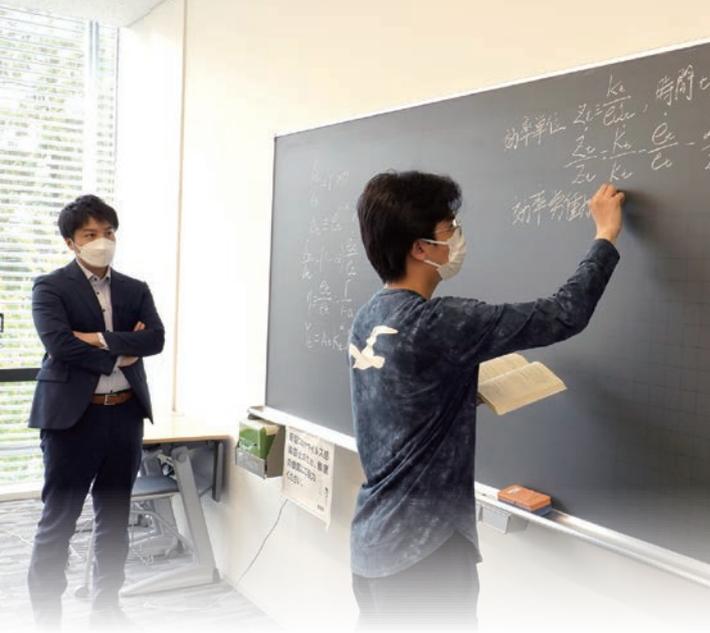
大学院生からのコメント

経済学専攻 博士課程後期課程3年 **千葉 将彦** さん



大学院修士課程修了前に、当時の指導教授から博士課程への進学を勧められましたが、一度社会人になることを選択し、民間企業、獣医大学生、県庁職員を経て大学院経済学研究科に社会人入学しました。社会人になって早い段階にて、いずれ機会が来たら博士課程で学びたいと思いつけておりました。50歳近くになって再び大学に通うことは新鮮な気持ちで衰えないことと同時に、学問の奥深さを日々と実感している日々です。

東北学院大学大学院を選んだ理由は、父や親戚がお世話になった大学であり、小さい頃から非常に身近な大学であったからです。本学は自由な校風で、学びやすい環境とともに、学習支援も充実しており、図書館蔵書数も豊富です。毎週土曜日は大学院ゼミの日で午前中から夕方まで親身になって御指導を頂いております。大学院に入学後、文章の書き方、理論展開など、改めて気を配るようになりました。また、大学院ゼミでは的確に簡潔に話すことが求められ、理系出身者として大変勉強になっています。現在は修士課程で学んだテーマをより広く深く研究しているところです。獣医師の仕事と大学院での研究、TAを両立する多忙な毎日ですが、漸く自分の理想とするスタイルとなり、内心とても欣喜雀躍しています。



アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)

本研究科の理念・目的、教育目標に沿って次のような人材を求めています。博士前期課程の入学試験では、「一般選考」、「社会人特別選考」および「特別選考」を設けています。経済学の一定の基礎的学力と明確な研究計画をもち、さらに高度の専門知識や研究能力を身につけたいと考えている意欲ある人や、これまでの社会経験をもとに学問研究を深めることによって社会貢献を志す人などを積極的に受け入れています。

博士後期課程の入学試験では、「一般選考」と「社会人特別選考」を設けて、専門的な研究能力と明確な研究計画をもって意欲的に博士論文の作成に取り組もうとする人を受け入れています。

担当教員・研究テーマ

産業組織論 アレイ ウィルソン

企業間競争、または銀行間競争の理論的・実証的分析

国際金融 伊鹿倉 正司

金融機関の海外進出に関する実証研究

マルクス経済学原理論 泉 正樹

資本主義の歴史的發展を理論的に捉える

経済思想史 小沼 宗一

リカードとマーシャルを中心としたイギリス経済思想の歴史とその現代的意義

現象学的社会学・差別論 郭 基煥

1. 震災以降の東北地方における多文化共生の可能性と課題
2. 移民における多重的なアイデンティティ

社会保障論 熊沢 由美

日本における社会保障の歴史

国際貿易論、産業組織論 倉田 洋

不完全競争における企業立地・海外直接投資と政策

差別問題研究・生活史研究 黒坂 愛衣

1. ハンセン病問題を中心としたマイノリティ当事者の生活史の記録
2. ハンセン病回復者とその家族の関係性分析および関係回復の可能性の追究

財政学・地方財政論 佐藤 滋

1. 比較福祉国家論
2. 福祉国家のグローバルヒストリー

グローバル経済史 佐藤 純

イギリスを中心に展開したグローバリゼーション(「第一次グローバリゼーション」)の盛衰、特にその崩壊過程に関する研究

加齢経済論(高齢化の経済学)、世代会計 佐藤 康仁

1. 高齢化と世代間格差に関する研究
2. 世代会計による日本の世代間不均衡の計測

国際経済学・経済成長論・政治経済学 篠崎 剛

国際間の所得不平等の原因を、1. 国際貿易、2. 各国の消費習慣、および3. 各国の政治的活動に求め動学マクロモデルを用いて分析している。

近世後期(1800年頃)から現代(1980年代くらい)までの日本経済史、日本経営史 白鳥 圭志

1. 第2次世界大戦期から1970年代前半までの戦後日本金融システムの形成史
2. 1960年代後半から1980年代までの国鉄改革の歴史的検討など

地域経済論・経済地理学 千葉 昭彦

1. 都市的地域における空間構造の変容が経済活動に及ぼす影響の研究
2. 都市と農漁村の経済的結びつきに関する研究
3. 東北地方の経済的特徴の検討

マクロ経済学 舟島 義人

財政・金融政策の理論及び実証研究

経済統計論、不平等の経済分析 前田 修也

1. 経済統計における資料的課題・調査論的課題・計量分析的課題など
2. 各種不平等尺度・相対的貧困尺度の理論的実証的研究

都市経済学・産業組織論 若生 徹

空間経済、流通経済の理論分析による市場の水平的構造と垂直的構造の解明

ゲーム理論 稲見 裕介

情報不完備ゲームとその応用

金融論、アメリカ経済論 小林 陽介

グローバル金融危機後のアメリカ証券市場、情報技術の発展と金融業

1970年代以降の地域社会における市民活動の展開とその課題 齊藤 康則

1. 地方圏の郊外団地における防災福祉コミュニティの形成
2. 東日本大震災における被災者支援・ボランティア活動

財政学・地方財政論 谷 達彦

財政・租税政策の国際比較

環境経済・政策論 谷 祐可子

持続可能な発展の理論的・実証的研究

経営学、産業論 田野 穂

成長産業における戦略行動と企業間取引関係、企業間取引研究の変遷

景気循環論 松前 龍宜

景気循環の理論・実証研究

環境経済学、公共経済学 宮本 拓郎

環境政策の理論的・実証的研究、公共調達に関する実証研究

経営学専攻

ビジネス・マネジャーや
会計スペシャリスト等の人材の育成

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

本専攻は、研究者や教育者の育成のみならず、経営や会計に関する高度の専門知識を有する「ビジネス・マネジャー」や「会計スペシャリスト」の養成を目指しています。特に、自らのキャリアを発展させようとしている人の研究課題を広くサポートします。

本専攻に修学する大学院生には、年齢、出身大学、社会経験において多様性がみられます。また税理士の国家資格取得をめざす社会人学生も在籍し、卒業後は現在勤務している事務所や企業に戻ったり、税理士の資格取得後に独立したりして、広く社会で活躍しています。

理念・目的

キリスト教による人格教育を基礎として、経営学の理論及び応用を教授し、専攻分野の研究能力を養うことによって、研究者、教員、専門職、企業人など幅広い人材を育成し、社会の進展に寄与する。

1. 研究者・教育者の育成だけでなく、経営に関する高度な専門知識（会計スペシャリスト）、及びマネジメント能力（ビジネス・マネジャー）を有する職業人も養成する。
2. 経験を理論化しようとする人、解決しなければならない問題を抱えている人及び自らのキャリアを発展させようとしている人の研究課題をサポートする。

教育目標

主指導教員及び副指導教員による教育の下、広い分野の学識を授け、高度の専門性を要する職業等に必要能力又は専攻分野における研究能力を養う。

1. 修士論文を完成させる過程において、高度な専門知識を獲得するように指導する。
2. 企業経営者、組織体の管理者に必要な倫理、構想力、問題解決能力を育成する。
3. 古典的文献を通じた幅広い領域の理解、及び基本的な概念の把握により、体系的に経営理論を学ばせる。

教員からのメッセージ

おかだ こういちろう
経営学専攻主任 岡田 耕一郎 先生



大学院では、それぞれが抱いた疑問や問題を、専門的な知識に基づいて、深く探求し解決できるようになることを目指します。そのためには、学部での概論的な学習を越えた高度な専門知識を身につけることが必要です。高度な専門知識を得るには、その学問領域の専門書や既存の研究論文などの講読、分析を通して、応用可能なレベルにまで知識を引き上げることが必要となります。それにもとづいて、自らの疑問や問題を解明すべく研究する一仮説を構築し検証する一ことが求められます。つまり、それを研究することの意義は何か（意義）、それを解決するためには何が必要なのか（要件）、問題を解決することによって何が得られるのか（効果）を演習や論文の作成を通して明らかにしていきます。

このような深い思考は、研究者を目指す人だけではなく、経営のプロフェッショナルや会計スペシャリストを目指す人たちにとっても非常に重要なことです。教科書通りにはいかない現実社会の様々な問題に対処する思考能力と問題解決能力を大学院で身につけませんか？

修了生からのコメント

ビジネス・マネジャーとして活躍するOB

さとう ちづる
佐藤 千鶴 さん

（国公立大学教育学部卒業。東北学院大学経営学専攻で修士号取得。現在、宮城県内に4店舗を展開するイタリアンレストラン・チェーン「プレアグループ」の経営に参加）



私は、宮城県内の国公立大学教育学部の出身ですが、大学卒業後、実家のレストラン・グループの経営と現場実務に携わる中で、経営学を学ぶ必要性を強く感じ、大学院経営学専攻に入学しました。

経営者の中には経営学の理論は現実の経営には役に立たないとおっしゃる方もいますが、私自身は、理論を学んだうえで実務を行うことが、優れた経営につながると思っています。特に飲食サービス業では日々の業務に忙殺されてしまいますので、大学院で学んだ2年間は自分の企業や仕事を客観的かつ広い視点から見直す良い機会になりました。マーケティングや経営戦略の視点そして数値管理などを自社の経営に積極的に取り入れ始めたのは、大学院での理論への学びがキッカケになりました。

研究科の先生方には、講義はもちろん、実務上の問題についても色々相談に乗っていただきましたし、また大学院で知り合った会計の専門家や社会経験豊かな同級生たちとの関係も大学院で得た貴重な財産の1つです。

起業を目指す方、多店舗展開や事業多角化など新たな事業展開を目指す方、また経営の現場で問題や課題を抱え悩んでいる方は、大学院での学びから得られるものは多いと思います。

修了生からのコメント

会計スペシャリストとして活躍するOB

ささき よう
佐々木 陽 さん

（私立大学商学部卒業。東北学院大学経営学専攻で修士号取得。現在、税理士法人に勤務）



私は、現在、引き続き、税理士法人に勤務しております。大学院では、職業会計人になることを目標に、税法を専攻していました。大学院生の時には、昼は税理士法人で仕事をし、夜間と週末を利用して大学院に通いました。

大学院は、自らが持った疑問について、自ら調べ、考え、結論を導き出すところです。より具体的には、教員の指導下で、2年間の研究計画を立て、計画に沿って文献や資料を収集し、その成果を「修士論文」としてまとめ上げます。自ら主体的に論文を書き上げることによって、専門知識を深めるとともに、日々の業務において直面する問題や課題に対し、自ら考え、そして解決する能力を養うことができました。

東北学院大学経営学専攻は、特に税法や会計学分野の先生方が多数いらっしゃいましたので、様々な観点から修士論文に対するアドバイスをいただきましたし、また実務上の問題などについても色々御相談させていただきました。

経営学専攻での2年間の学びから得た知識と経験は、私にとって貴重な財産であり、また自らの可能性を広げ、今後の人生をより豊かにしてくれるものであると考えています。



研究領域／研究分野

- 経営学特講、経営史特講、経営管理論特講、経営統計論特講、情報処理論特講、経営組織論特講、国際経営論特講、人的資源管理論特講、商業史特講、流通論特講、経営戦略論特講、ファイナンス特講、など
- 財務会計論特講、国際会計論特講、管理会計論特講、原価計算論特講、税務会計論特講、租税法特講、監査論特講など

時間割の例

会計スペシャリストを目指すAさんの場合

夜間開講科目

	1限目 (8:45~)	2限目 (10:45~)	3限目 (13:15~)	4限目 (15:00~)	5限目 (16:45~)	6限目 (18:25~)	7限目 (20:05~)
月							
火						国際会計論 特講	
水							
木						経営学特講	
金						外国経営書 研究(仏語)	
土		税務会計論 特講	租税法演習	租税法特講 義	研究科論文 指導	☆特別講義	

逆L字型の配置
になっている

ここに注目！ 夜間と土曜日の講義を集中的(逆L字型)に履修することで、仕事との両立も不可能ではありません。

担当教員・研究テーマ

- **経営戦略論** 秋池 篤
製品デザインが経営戦略に及ぼす影響に関する研究
- **介護サービス組織の経営管理** 岡田 耕一郎
小集団型の介護サービス組織とサービスシステムの管理、日本とスウェーデンの介護サービス組織の比較
- **経営管理論** 折橋 伸哉
日本の国際競争力の最大の源泉であるといっても過言でないものづくりマネジメントについて考察し、その国際的な適用可能性についても追究する
- **租税論** 小池 和彰
給与と所得者の必要経費及び租税支出の研究
- **国際会計論** 古賀 裕也
日本企業の会計行動に関する実証研究、IFRS適用に関する実証研究
- **日本の江戸時代～明治時代の商業流通史** 齋藤 善之
海運・流通・市場・商人ならびに商家経営の歴史研究

- **監査論** 佐久間 義浩
財務諸表監査の経済的機能
- **管理会計論、原価計算論** 佐々木 郁子
BtoB、BtoC、震災
- **日本経営史、雇用関係史・労働史** 菅山 真次
日本的雇用関係の形成と展開、ホワイトカラー層の歴史分析、就職の歴史
- **人的資源管理論** 鈴木 好和
人的資源管理とインターナル・マーケティングの研究
- **数値計算、アルゴリズム開発、プログラミング、シミュレーション** 根市 一志
データ解析のためのプログラム、アルゴリズムの開発
モンテカルロシミュレーションのためのプログラム開発
- **戦略的管理会計** 松岡 孝介
管理会計とマーケティングの関連性

- **実証ファイナンス** 松村 尚彦
行動ファイナンスの視点から、株価形成について実証的に分析をする。
- **国際経営論** 村山 貴俊
①清涼飲料会社の国際戦略に関する実証研究
②多国籍企業と対外直接投資に関する理論研究
- **CSR (企業の社会的責任) とコーポレート・ガバナンス(CG)** 矢口 義教
イギリスを中心とするEU各国のCSRとCGの比較研究、東日本大震災時と復興過程におけるCSRの役割

法律学専攻

キャリアアップの支援

専攻の紹介

□みなさんのキャリアアップを支援します。

法学研究科法律学専攻の主たる教育目標は、専門職業人の養成と再教育、つまり、みなさんのキャリアアップです。

税理士、司法書士、社会保険労務士、行政書士などの専門職業人になろうとする人、あるいはすでになっているが、もっと専門性を高めたいと思っている人、まさにそんなみなさんに来ていただきたいのです。

また、公務員、企業人、教員などを目指している人、あるいはすでにそうした職業に就いてはいるが、法や政治に関する専門知識を生かしてキャリアアップをしたい人、法学研究科は、まさにそんなみなさんに来ていただきたいのです。

入学から修了まで、主指導教員、副指導教員の先生が中心となり、みなさんの要望にそって、しっかりと指導します。

□2つのコースがあります。

博士課程前期課程には2つのコースがあります。「法学研究コース」と「法学専修コース」です。法学研究コースは研究者になろうとする人のためのコースですので、上で述べたようなキャリアアップを目指す人は、法学専修コースになります。

法学専修コースを修了するには、特別の理由で本格的な研究論文を書かなければならない人（税理士試験の科目免除を目指すなど）を除いて、リサーチペーパーという形の論文を書くこととなります。リサーチペーパーでは、研究成果がみなさんのキャリアアップに結びつくよう、研究論文と比べて、より実践的・実務的な問題を研究します。

理念・目的

人間の尊厳への深い理解を追求しつつ、法または政治についての先進的な研究を推進するとともに、法または政治に関する体系的な、最新の知識とその応用を修得させる。

教育目標

次のような人材を養成し、再教育をも行う。

- ①法または政治に関する専門職業人（税理士、司法書士、社会保険労務士、行政書士など）
- ②法または政治に関する高度な専門知識を生かした職業人（公務員、企業人、教員、団体職員など）
- ③法または政治に関する高度な専門知識を有する社会人
- ④法または政治に関する研究者 ※これらは前期課程の教育目標。後期課程についてはホームページ参照。

学部生のみなさんへ 大学院は、「学問を究めたい」という人だけが進むところではありません。法や政治に関する専門知識を生かした職業に就いて、活躍しようとするなら、大学院で学ぶことは「ふつう」のことになりつつあります。そうした職業で必要とされる専門知識は、学部レベルの学びではまったく足りないからです。大学院は、その不足を、早期に、そして結果的には安いコストで補うためのものなのです。

社会人のみなさんへ わたしたちは、社会人のみなさんの入学を心から歓迎します。

授業の曜日・時間、授業の内容、修了までの履修計画など、みなさんの要望にできるかぎり応えようとする制度と気持ちがあります。これまで入学した社会人の方々はみなさん、充実した大学院学生生活を送り、所期の目的を達成しています。

修了生からのメッセージ

2021(令和3)年度
博士課程前期課程修了

ふし み つかさ
伏見 司 さん



私は税理士になることを目的に法学研究科に入学しました。税理士は税金の計算をするだけでなく、租税法の専門家として幅広い見識が求められます。法学研究科では租税法はもちろんのこと、民法や行政法、その他の法律を学ぶことができます。

租税法以外の法律を学ぶことは、租税法を学ぶ観点や実務の観点からも重要であると感じます。なぜなら、経営に関する相談を受ける税理士にとって、法律を体系的に理解することが経営相談の手助けになるためです。

また、実務家の先生方の講義もあり、実務に関する具体的なお話を聞いたことによって、自分が目指す税理士像をイメージすることができ、大変有難い講義でした。

社会人として仕事と学業の両立は簡単なものではありませんでした。特に修士論文の執筆が本格的になると、学説や判例を分析しながら自分の考えをまとめていくことに時間を要したため、まとまった時間を確保することに頭を悩ませました。しかし、諸先生方から丁寧なご指導をいただき、また講義の時間は夕方や土曜日など、こちらの都合にも配慮いただきまして、2年で修了することができました。

私にとってこの2年間は、これからの社会人生活において重要な法的思考力と時間管理力を身につけられた非常に貴重な期間でしたし、実務家の「先輩」と繋がりができ、想像以上に充実した大学院生活でした。

教員からのメッセージ

指導教員

さとう えいせい
佐藤 英世 教授



法学研究科の主な教育目標は、法学・政治学の専門性を生かした専門職業人のキャリア形成とキャリアアップのための指導・教育をすることです。その対象は、法学部卒業生だけでなく、法学部以外の学部を卒業した社会人も含まれます。最近の傾向として、税理士を志望する学生や社会人の入学が多くなっています。コメントを寄せてくれた伏見さんは、会社を経営するかわり税理士志望の社会人として博士課程前期課程（修士課程）に入学しました。彼は、2022年3月に修士課程を修了した後、国税審議会に修士論文の審査を申請して税理士資格を取得し、現在、税理士として活躍中です。働きながら2年で修士論文を完成させることは容易ではありませんが、伏見さんを含め同年3月の修了生全員が、2年で修士論文を完成させました。これは、もちろん院生の日々の努力のたまものですが、われわれ教員も院生への丁寧な指導とより良い学習環境づくりを心掛けています。たとえば、社会人の方が学修しやすいように平日の夜間（18時以降）と土曜日も授業を行っています。対面授業と遠隔授業を併用したハイブリッド授業も行っています。皆様のご入学を心より歓迎いたします。

詳しい情報はコチラ！



まなべゆうじ
真鍋雄至さん (2022(令和4)年度博士前期課程入学)
の修士論文と科目履修



修士論文
法人税法における行為計算否認
規定の一考察

主指導教員：高浜 智輝 准教授
副指導教員：佐藤 英世 教授

科目分類	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
導入科目	アカデミック・スキル			
一般講義	民法一般講義			
	商法一般講義			
	行政法一般講義			
応用講義	民法応用講義Ⅱ	商法応用講義Ⅰ		
		憲法応用講義Ⅰ		
		租税法応用講義Ⅰ		
演習		演習ⅠA	習ⅡA	演習ⅢA
		演習ⅠB	演習ⅡB	演習ⅢB
特定テーマ研究			税の理論と実務	

いらいなぎさ
岩井渚紗さん (2021(令和3)年度博士前期課程修了)
の修士論文と科目履修



修士論文
相続税法と所得税法の交錯から見る「二重の負担」に関する検討
ー相続不動産の含み益に対する「二重課税」を題材としてー

主指導教員：加藤 友佳 元学准教授
副指導教員：大窪 誠 教授

科目分類	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
導入科目	アカデミック・スキル			
一般講義	行政法一般講義			
	民法一般講義			
応用講義	民法応用講義Ⅳ	租税法応用講義Ⅰ	民法応用講義Ⅲ	
		民法応用講義Ⅴ		
		民法応用講義Ⅵ		
演習		演習ⅠA	演習ⅡA	演習ⅢA
		演習ⅠB	演習ⅡB	演習ⅢB
特定テーマ研究			債権の回収	税の理論と実務

法学研究科 Q & A

Q：経済的支援としてはどんな制度がありますか？

A：まず、一般的制度として学生支援機構からの奨学金があり、自分の必要に応じて、奨学金の貸与を申し込むことができます。あくまで貸与ですので修了後には返還しなければなりません。大学院では、特に優秀な成績で修了した人について「返還免除」とする制度があります。また、在学中、法学部の授業で先生の補助をするティーチング・アシスタント(TA)という制度があります。これは、自分にとってとても勉強になる経験となるとともに、報酬がもらえます。たとえば週に授業3コマでこのTAとして働く、年間では31万円の報酬を得ることができます。

Q：社会人が学ぶためにどんな制度がありますか？

A：まず、平日の昼には授業に出られない方のために、平日の夜間(18:25~19:55の6校時、20:05~21:35の7校時)と土曜日に授業を行う制度があります。法学研究科では、社会人の方の個別事情にできるだけ対応するため、その人ごとの時間割をつくっています。また、社会人の方(そして一般の学生も)は、いろいろな事情で、通常の年限(前期課程の場合は2年)で修了できないことがあります。そうした人のために「長期履修」制度があります。これが認められると、2年分の学納金を払えば、3日目、4日目は学費なしで在籍することができます。

Q：論文を書いたことがないのですが？

A：法学研究科への入学者のほぼ全員が、論文を書いた経験をもっていません。ですから、法学研究科では一から指導します。具体的には、入学後最初に履修する授業の一つが「アカデミック・ライティング」(現在の名称は、「アカデミック・スキル」)で、そこで論文のなんたるか、どう書けばいいのかについて、わかりやすく基本を学びます。2年生になると論文テーマを決め、論文を実際に書き始めますが、指導教員、副指導教員は、粘り強くきめ細かな指導を行います。「論文なんて本当に書けるのだろうか」と悩む時期もありますが、先生方の指導に誠実に向き合えば、最終的にはかならずいい論文ができるはず。それができたときの達成感、大学院ならではのものです。

Q：大学院学生用の部屋はありますか？

A：あります。大学院生用の部屋があり、そこには学生個人用の机(キャレル)が用意されています。また、これとは別に法学研究科の院生用の共同研究室があります。この部屋には共同で使うパソコン、プリンタが置かれ、近くにはコピー機もあります。共同研究室では、院生間で議論をしたり、学年を超えて交流できます。さまざまな年齢層、さまざまな専門領域の人が出会うことは、お互いにとって大きな刺激を生み出します。この「学びの共同体」の経験も大学院ならではのものです。これらの部屋は、日曜・休日でも使うことができます。

担当教員・研究テーマ

■労働法

非正規雇用に関する研究

阿部 未央

■民法

相続を含めた決済手段に関する研究

石垣 茂光

■政治学

日本及び欧米の政治意識の研究/日本の地方政治の研究/政治体制と政策過程の関係に関する研究

井上 義比古

■民法

離婚紛争における子どもの権利に関する研究

遠藤 隆幸

■民法

賃貸不動産が譲渡された場合に生じる法律関係の研究

大窪 誠

■商法

株式会社法の機関法および資金調達法の研究/市場経済秩序と企業法制の研究/支払決済法制の研究

菊地 雄介

■政治学

北欧の地方自治の研究/高負担時代の地方自治の研究

木下 淑恵

■国際法

変動する国際法秩序における法源の抵触の調整/国際投資紛争の解決/主権免除と人権の相克

黒田 秀治

■民法

複合的契約の研究

近藤 雄大

■政治思想史

ワイマール共和国時代のドイツ政治思想の研究/現代日本人の政治意識の研究/仙台の政治行政史

斎藤 誠

■憲法

憲法の原理論についての研究

佐々木 くみ

■行政法

行政法における第三者の権利救済についての研究

佐藤 英世

■民事訴訟法

情報開示と証拠提出にかかる現代的課題の研究

佐藤 優希

■法哲学

生命倫理ー特に、妊娠中絶の問題ーの研究/法学方法論の研究

陶久 利彦

■租税法

多様な事業体に対する課税のあり方に関する研究

高浜 智輝

■知的財産法

著作者の法定報酬請求権に関する研究/特許権の延長登録に関する研究

辻田 芳幸

■刑事訴訟法

訴因論に関する基礎的研究の継続及び各論の問題についての研究

富田 真

■刑法

正犯論共犯論の研究/罪数論の研究

中村 雄一

■国際政治学

国際秩序の変容過程の研究/現代国際政治史/国際政治における国連の機能の研究

三須 拓也

■刑法

因果関係論の研究/過失犯の研究/共犯論の研究

宮川 基

■商法

保険金請求権の法的性質についての研究/傷害保険金請求権の成立要件についての研究

横田 尚昌

機械工学専攻

信頼され期待される国際的エンジニアの育成

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

信頼され期待される国際的エンジニア・研究者の育成を目指す本専攻では少人数での講義や演習において、より密度の高い効果的な教育を行っています。特に課題研究およびゼミナールでは、指導教員による大学院生とのFace-to-Faceの研究指導を行っており、これが本専攻の大きな特色になっています。また、自由曲面創成加工システム、近赤外偏光分光装置、高精細コンフォーカル顕微鏡、三次元形状測定機および生体組織内遺伝子発現観察システムなどの研究用設備が文部科学省研究設備等補助金などにより整備されており、これらの設備が大学院生の研究においても大いに活用され、機械工学専攻各分野において多くの研究成果が得られています。本専攻では、このような大学院教育と研究を通じて、科学技術の急速な進歩にも対応できる人材の育成をはかっています。

理念・目的

機械工学分野における高度の専門性を要する職業等に必要な能力と自立して問題解決にあたる能力を身に付け、科学技術の急速な進歩にも対応できる「信頼され期待される国際的高級エンジニア・研究者」を育成する。

教育目標

- ①正しい倫理観、創造力と外国語コミュニケーション基礎力を有する人材を育成する。
- ②機械工学関連分野の広い基礎的素養と専門分野の高い学識を有し、自立して問題を解決できる能力を身に付け、科学技術の急速な進歩にも対応できる人材を育成する。
- ③機械工学分野における高度の専門性を要する業務に従事するスペシャリストとしてのコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を修得させる。

教員からのメッセージ

機械工学専攻主任

おのりふみ
小野 憲文 教授



機械工学は、あらゆる産業の根幹であり、他の工学分野と密接に関係しております。一方、近年、人間の快適さを追求するばかりでなく、地球全体の環境エネルギー問題について考慮することも重要な課題となっています。また、自動車の自動運転に代表される人工知能応用技術も機械工学と大いに関連しております。このような社会の要求に対応できる専門的知識と応用力を併せもち、人間性豊かで創造性の高い機械系の技術者・研究者を育成するために、当専攻は幅広く、充実した研究課題に対応しております。大学院在学時には、研究に対して自由かつ多くの時間が与えられます。大学院生の皆様に対しては、この機会に、さらなる知識の向上と研究成果の発展につなげていくことを期待します。

私が大学院の講義で担当している流体工学特論は、航空宇宙工学や天文学とも関連する圧縮性流体工学と呼ばれる分野を取り扱い、衝撃波の発生メカニズムなどの複雑な流れ場を学びます。また、このように複雑な熱流動を、より簡素化して実験的・数値的にシミュレーションおよび制御する研究を行っています。当研究室は、他大学・他国出身の大学院生の修了実績があります。これからも学際的な見地から新たな研究成果を生み出すことができるように邁進していく所存です。

修了生からのコメント

2021(令和3)年度
博士課程前期課程修了

かわさき しゅうや
川崎 柊耶 さん



光通信だけでなく様々な分野で光ファイバが用いられています。光ファイバは、光伝送効率が良いことが特徴として挙げられます。そのため、光通信ネットワークとして広く普及しています。

現在、私は光ファイバを研磨する特殊な砥石の開発を行っています。通常、光ファイバの端面は砥石で研削をした後に、ダイヤモンドパウダーで研磨します。研磨は、加工能率が悪く時間もコストもかかるという欠点があります。そこで、砥石だけで光学的な鏡面を出す研究に取り組んでいます。開発した砥石とパルスレーザを組み合わせた実験で新しい加工方法を発見して、最終的に大幅なコストダウンを目指しています。

機械専攻は、理論的な講義をベースにそれを周りに伝えるプレゼンテーションを取り入れた講義も多いため、研究室の中で先生や学部生のみなさんと技術的な内容に関して活発な議論ができるようになります。また、所属する研究室ではみんなでCADやTOEICの勉強もしています。このような大学院での経験は、一歩進んだ研究ができるだけでなく、社会人として必要な能力を身に付けることに繋がると思います。現在、先進的な仕事に携わるには語学に堪能な大学院卒の学生が求められています。進路に悩んでいる学生は貴重な経験ができる大学院への進学をお勧めします。



研究領域／研究分野

機械工学専攻の専門とする研究分野を大きく分けると、以下の4分野になります。

(a) 熱工学・流体工学分野

動力・エネルギーや周囲環境などの人間の生活に関わる領域で、熱や流れに関する研究を行う分野です。プラズマなどの機能性流体や熱流動の解析そして動力やエネルギー変換などに関連した研究・開発が行われています。

(b) 材料力学・機械材料学分野

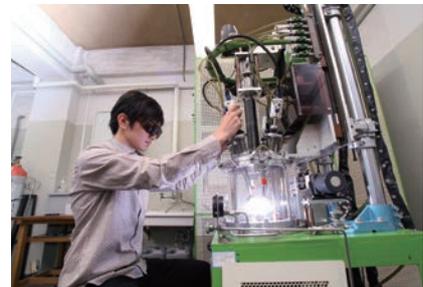
材料の強度設計や材料開発に係わる新しい技術。例えば、相変態を利用した材料の強化、破壊機構解明に必要な非破壊的欠陥検出技術そして知的構造体を構成する知能・機能材料の高性能などを対象に研究開発を行う分野です。

(c) 機械力学・機械要素・機械工作学分野

従来の機械工学と光エレクトロニクスの分野を融合させた新たな設計方法の確立、ものづくりの原点である機械工作の高度な知識と経験を生かした先端的な加工法の開発そして機械と電磁気との分野を融合した新たな原理で動作するアクチュエータの開発などを対象に研究を行う分野です。

(d) 制御工学・生体工学分野

生体構造や機能の解析とそれに基づく機械および制御系の設計開発、医療診断支援技術および医用デバイスの開発そしてロボット・メカトロニクス開発と関連要素技術の開発を行う分野です。



「アーク放電を利用した溶解法により、新しい機能性を有する合金や化合物を合成しています。」

担当教員・研究テーマ

■知能システム数理

システム制御に関する数学的理論の研究

魚橋 慶子

■知能材料工学

磁性形状記憶合金や超伝導体の新物質開発
特殊な環境下での材料特性評価技術の開発

岡田 宏成

■熱流動シミュレーション

複雑な熱流動現象の数値シミュレーションに関する研究

小野 憲文

■人間-機械システム学

マッサージロボットの開発
音声・画像インターフェースを用いたロボットの制御

梶川 伸哉

■生体工学

生体組織・細胞のバイオメカニクスに関する研究

加藤 陽子

■自動車工学

自動運転からサステナブルなエンジンの開発に至る
自動車全般に関する研究

城戸 章宏

■ロボット開発工学

玉乗り型ロボットや脚歩行ロボット、および関連技術の開発

熊谷 正朗

■適応システム

ロボットの学習機能に関する研究

郷古 学

■精密加工

NC工作機械および超音波による工業材料の加工に関する研究

斎藤 修

■バーチャルリアリティ

バーチャルリアリティにおける物理シミュレーションおよび触覚提示技術に関する研究

佐瀬 一弥

■バイオメカニクス

聴覚のメカニクスの解明と医療・福祉・スポーツ分野への応用

濱西 伸治

■エネルギー・環境工学

持続可能エネルギーを活用する新しいシステムの提案

星 朗

■オプトメカトロニクス加工

バイオ用可視光レーザーの開発、およびレーザナノ加工技術に関する研究

松浦 寛

■アクチュエータ工学

アクチュエータの開発とその動作解析に関する研究

矢口 博之

■材料信頼性工学

拡散現象を活用した金属微細材料の創製・特性評価および応用展開

李 淵

電気工学専攻

国際的にも社会的にも貢献できる技術者を育成

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

本専攻では、国際的にも社会に貢献できる高度な電気電子情報通信技術者の育成を教育目標としております。具体的には、電力・制御分野、情報・通信分野、電子・材料分野の3分野で、前期課程では講義とゼミナール・課題研究活動を通して技術者としての基礎を学び、そして後期課程では更に高いレベルの研究開発能力の習得が行われています。大学院では研究室担当の教員の直接的な指導の下で、それぞれの研究独自の新しい課題の解決に向け研究活動が進められます。その成果は国内のみならず、外国の学会においても発表され、厳しく評価されるため、自分の研究が社会にどのように役立つのかを実感することができますし、また、そのような経験を積むことは本人の自信にも繋がります。今までの多くの成果発表に対し、業界からも高い評価を得ているようです。また一方、研究室活動、ティーチングアシスタント制度などを通して、後輩の指導にも当たるなど、将来の指導者としての体験も積むことができます。研究活動を通じて身に付いた、専門分野に関する広い視野と最先端の専門技術は、就職後、社会に出てからの本人の活動の支えとなっていることも確かです。ちなみに本専攻の課程修了者のほとんどが一流企業に就職しております。

理念・目的

電気工学が人間社会の科学技術発展・生活環境改善の基盤であることを十分に理解したうえで、高度化する社会からの要望に応えるべく専門分野に関する研究を通じて高い自律心と実践能力を有し、建学の精神に沿って社会人としての素養と倫理感を兼ね備え、指導能力を身に付けた人材を育成する。

教員からのメッセージ

電気工学専攻主任

かみなが まさひろ
神永 正博 教授

電気工学専攻は、電力・制御分野、情報・通信分野、電子・材料分野から構成されています。いずれも現代社会を支えるのに不可欠な基盤技術です。これら3つの分野はもちろんそれぞれが基幹技術であり重要なものですが、近年は、互いに補いあって新しい融合技術も生まれています。例えば、医療分野での融合技術として、遠隔操作できる手術用のロボットが挙げられます。電気的な制御とソフトウェア、通信技術の融合です。当然ながら社会からの期待も大きなものです。電気工学専攻では、こうした様々な電気工学関連のテクノロジーに精通した技術者を育成するため、経験豊富で創造性豊かなスタッフが豊富な研究テーマを用意して学生の期待に応えます。

大学院時代は、学部時代と比較して各段に自由になります。研究課題の設定や、時間の使い方なども、指導教員に従うだけでなく、自身で行う余地が各段に増えるのです。私は数学を専攻したので、大学院時代は、論文を読み、定理を拡張できないか、何か面白い問題はないかを手探りする日々を過ごしました。所属した研究室は、自由すぎてほぼ何の指示もありませんでしたが、不思議と面白いテーマを見つけることができ、満足のいく論文が書けました。フランスの数学者の論文をうまく理解できず、自分で証明を書き直してみた結果、彼らよりもよい結果にたどり着いたのです。問題が解けたときは興奮して眠れず、徹夜明けに鴨川沿いを歩きながら、誰も知らない定理を証明した喜びをかみしめていました。大学院時代に何を学び取るかは、あなた次第です。これまでできなかったことを可能にする喜びは、大変な困難を乗り越えるところからきます。是非、困難を乗り越えて、研究の喜びを分かち合いましょ。

大学院生からのコメント

博士課程後期課程2年

よこさわ まさき
横澤 将貴 さん

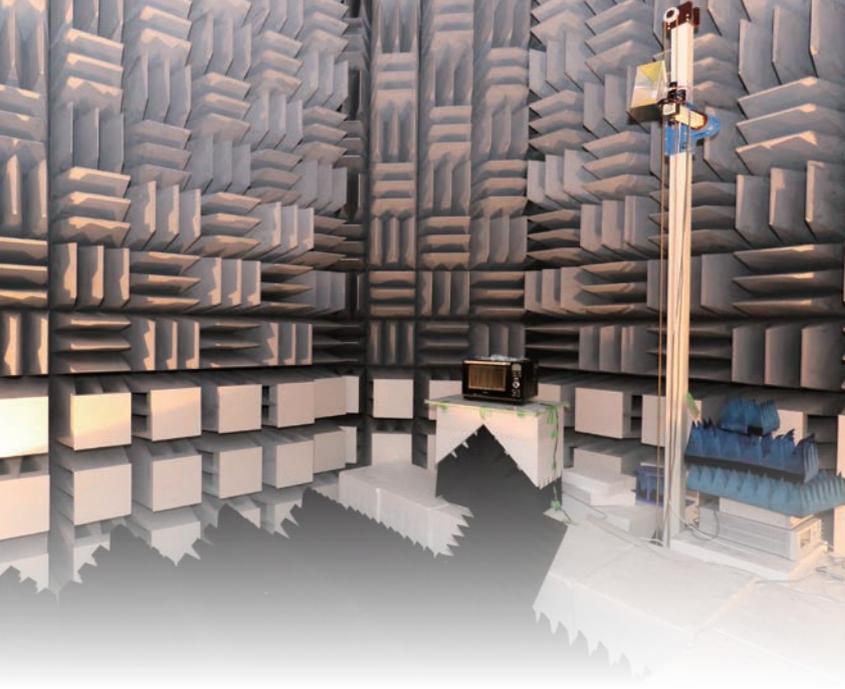
電気工学専攻は、現代社会に必要な電気と情報技術について研究を行っており、私もワイヤレス給電について研究をしています。学部生時代にこのテーマについて興味を持ち、より深く学びたいと考え進学に至りました。

ところで、皆さんは大学院への進学についてどのように考えているのでしょうか。就職が難しい、大学院でやっていける自信がない、一部の成績の良い人が行くものだから自分は関係ない。そんなイメージを持つ人もいでしょう。ですが、もう一度大学院進学で得られるものについて考えて頂きたいと思います。

大学院生活では、自分の選択したテーマ、研究についての知見を深めることが出来ます。学部生時代にも研究をすることはできますが、期間が3年次からの1年半と短く、研究に加えて授業や就活を並行させなければならないと考えると、十分な研究をすることは難しいです。その研究を通し、テーマに関する深い知識と研究を通して見つかる自分の長所はこれからの自分を支える武器となります。

また、就職についてはあまり心配する必要が無いように私は考えます。大学院への進学がある程度一般的である工学研究科であり、現代社会に必要な不可欠である電気・情報分野への進学です。学部生よりも専門的な知識と経験に富んだ修士学生が蔑ろにされるような場面は、考えにくいです。

今後の進路を考えた際に、何がしたいかわからない、自分の武器は何だろうと思うような人も多いと思います。そういった人こそ大学院へ進学し、研究や生活の中で、人生の指針と自分の武器を見つけてほしいと私は考えます。



教育目標

- ①担当教員の指導の下で研究・開発を進めることにより、主体的、かつ、積極的な姿勢で考え行動できる研究・開発能力や将来の技術に対する洞察力を身に付ける。
- ②研究・開発を進める上で必要となる常識的な判断能力、情報収集能力、表現能力を身に付ける。
- ③専門分野に係わる高度な専門的知識を修得すると共に、これのみならず技術者としての裾野を広げるため、他分野の専門知識も積極的に修得する。
- ④TA制度や研究室内の後輩の研究指導等によりリーダーシップ能力を育成するとともに、研究室活動、学会活動等により、社会人として必須な協調性を高める。

研究領域／研究分野

- (1)電力・制御分野：電気エネルギーの発生・送電・配電に係わる技術、自然エネルギーの有効利用のための電力系統構成・保護・制御技術、電力・エネルギー応用技術、モーター制御技術、メカトロニクス的制御（ロボットなどの制御）エネルギー変換技術、ワイヤレス給電技術などを対象に研究開発を行う分野です。
- (2)情報・通信分野：情報通信技術の基盤技術に係わる新しい技術、例えば、信号変換技術、通信ネットワーク技術、コンピュータ技術、マルチメディアを対象とした各種情報処理技術、モバイル通信用高性能アンテナ技術、不要電磁波抑圧技術などの伝送技術、情報セキュリティ技術などを対象に研究開発を行う分野です。
- (3)電子・材料分野：誘電体、磁性体、半導体など材料の開発とその応用技術の確立、半導体デバイスの開発、ナノテクノロジー・半導体技術を駆使した高性能センサー技術等を対象に研究開発を行う分野です。

担当教員・研究テーマ

音響VR通信

岩谷 幸雄

- (1)知覚過程の理解に基づいた音空間提示システムの開発
- (2)コンピュータネットワークの知的管理手法の研究

高周波伝送回路

大場 佳文

- (1)マルチバンド整合回路の設計法の構築に関する研究
- (2)マルチバンド多端子伝送回路の設計法の構築に関する研究

電気システム制御

郭 海蛟

- (1)モータの高性能駆動に関する研究
- (2)ロバスト制御系の設計に関する研究

暗号・情報セキュリティ工学

神永 正博

- (1)暗号理論・耐タンパー暗号処理技術に関する研究
- (2)シュレーディンガー作用素のスペクトルに関する研究

形状処理工学・情報考古学

木下 勉

- (1)自由曲面・点群・メッシュなどの3次元形状の幾何形状操作に関する研究
- (2)3次元データとして表現された物体の幾何的な特徴分析に関する研究

マルチメディア・感性情報

金 義鎮

- (1)デジタル画像の特性を用いた基本図形の高速抽出に関する研究
- (2)道路情報から、道路標識の自動抽出および認識に関する研究
- (3)次世代向け電子教科書の開発とその有効性の検証による次世代の教育環境の確立

情報インタラクション

木村 敏幸

- (1)超臨場感コミュニケーションによる作業支援に関する研究
- (2)マルチモーダル情報処理知覚過程の理解に関する研究

電力制御管理システム・電力安定化機器

呉 国紅

- (1)再生可能エネルギー発電（太陽光、風力発電など）を有効に利用するための研究開発（マイクログリッドシステム、電力貯蔵技術）
- (2)パワーエレクトロニクス、超電導、制御理論などの新技術による次世代電力システムの安定化技術

生体電磁工学

佐藤 文博

- (1)EV・NGV等の移動体に対するワイヤレスエネルギー伝送システムの開発
- (2)体内埋込型治療機器による低侵襲医療システムの開発
- (3)FES・TESによる運動機能再建と神経刺激システムの開発

情報・通信分野

鈴木 利則

- (1)携帯電話やWi-Fiなどの無線通信方式に関する研究
- (2)レーダーや無線センシング技術に関する研究

応用電磁エネルギー工学

栢 修一郎

- (1)軟磁性材料を利用した環境発電デバイスの開発
- (2)電力用磁性材料の低損失化に関する研究
- (3)超短パルスレーザーと磁気光学効果を用いた高周波磁気イメージングに関する研究

符号理論

吉川 英機

- (1)誤り訂正符号および符号変調方式の性能評価に関する研究
- (2)情報セキュリティシステムの評価に関する研究

電子工学専攻

自然界の現象を解明し先端科学技術を駆使する

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

電子工学専攻の理念は、科学技術の発展を通して人類の福祉と繁栄に貢献するという工学の使命に基づき「速やかな技術革新を遂げる電子工学分野の基礎的な知識を確実に身につけ最先端の実験手法を体験することを通して、さらに高度な電子工学の専門知識を体得し、建学の精神にそった社会人としての素養と倫理観を兼ね備え、確固たる自信を持って開発研究に対処できるエンジニアを養成する」ことです。

半導体・光・磁気という私たちの身の回りにある現象が、最先端のエレクトロニクス（電子デバイス）に応用され、家電製品から自動車や電車に至るまであらゆる機器に搭載されて、それらの作動システムを制御しています。私たちの日々の生活は電子工学や電子技術によって豊かな生活を享受し、安全安心が守られています。

電子工学専攻では自然界の現象を電子・原子・分子レベルから解明することにより先端的科学技術を開拓し、物質やエネルギー、エレクトロニクスなどの分野に応用展開することを目指しています。電子工学専攻では、物質の基礎的性質の解明、新物質の創成と物性予測、量子エレクトロニクス、電子デバイス、電子計測・情報システム等に関する具体的な研究テーマを通して融合的科学技術の習得とそれを広く応用する能力、さらに専門領域を超えた新しい境界領域を創造する能力を有する基礎と応用の両分野で活躍できる研究者・技術者を育てることを教育目標にしています。

研究は国内外の大学や研究所とも共同研究が闊達になされ、その成果は国際会議などにおいて大学院生が自ら発表し、広い視野に立った先鋭的研究成果として評価されています。

理念・目的

科学技術の発展を通して人類の福祉と繁栄に貢献するという工学の使命を自覚し、急速な技術革新を遂げる電子工学分野の基礎的な知識を確実に身につけ、さらに高度な電子工学の実験手法と専門知識を修得し、社会人としての素養と倫理観を兼ね備え、確固たる自信をもって社会貢献できるエンジニアを養成する。

教育目標

電子工学専攻における教育は、下記の事項を達成することを目標とする。

- ①工学技術者として必要な倫理観とそれを実社会で活用するための広範な知識の修得
- ②マテリアル・デバイス工学ならびに電子計測学に関する電子工学の先端知識の修得
- ③少人数教育による「工学特別演習」と「工学修士研修」の実践をととした研究遂行能力の鍛錬
- ④十分な英語コミュニケーション能力と自らの専門分野の文献調査・発表能力の育成

教員からのメッセージ

電子工学専攻主任

いしがみ しのぶ
石上 忍 教授

現代社会で既に大きく普及しているスマートフォンやコンピュータ等の電子機器や家電製品、自動車、情報デバイス、情報通信・伝送システム、さらには医療機器においても電子工学のテクノロジーが必要不可欠となっております。このように現代社会の技術を支える研究者や技術者の育成のため、本電子工学専攻では、電子物性、電子材料、半導体デバイス、情報通信工学、電子計測工学、情報処理工学、理論・数学といった専門分野で教育・研究を行っております。これら技術は、私たちが生きている今を支えているのもちろんのこと、未来の社会を安全・安心に魅力あるものにするのに貢献するはずで

す。大学院では、自身が取り組む研究テーマに沿って、未だ分からないことに対し、自ら考え、自ら実践しながら研究を進め、答えを見つけることができます。さらに、まだ世の中で試みたことがない独創的で挑戦的な研究にチャレンジできるのも大学院の魅力です。時には困難な壁に当たることもあると思いますが、これも将来社会で活躍するための貴重な自己訓練の期間となるはずで

す。ぜひ本学電子工学専攻で、教員や仲間とともに未来の社会を作る研究をしてみましょう。

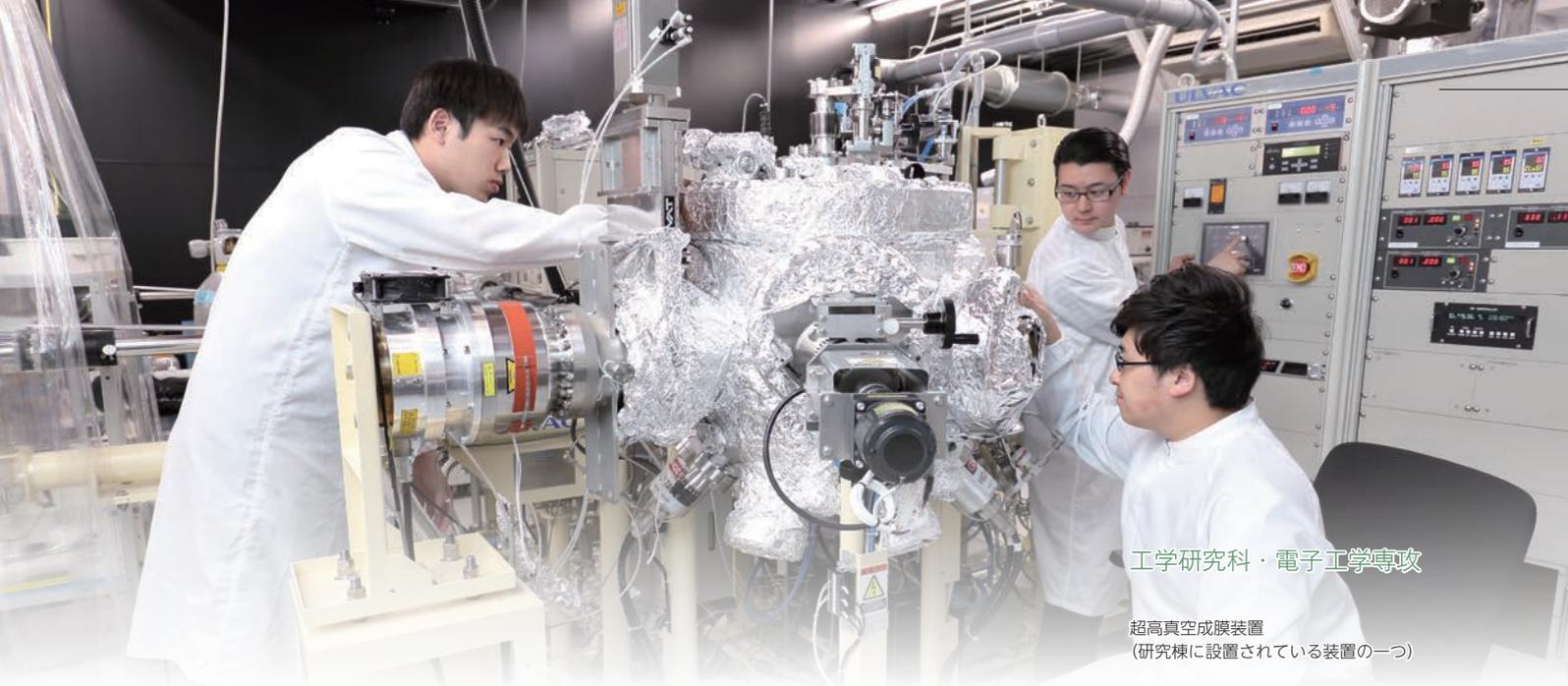
大学院生からのコメント

博士課程前期課程2年

ちば あんな
千葉 あんなさん

私は、大学院で、仮想現実（Virtual Reality）を用いて災害時の様子を再現し、心理面に着目した被験者の誘導法についての研究を行っています。学部生時代に、スマートフォンやARグラス等の情報端末を使うことで、災害時により効果的な避難誘導を行うことができないかと考え、このテーマを深く研究してみたいと思い、大学院に進学しました。

大学院では、自身が研究しているテーマ以外にも、講義や学会発表等から幅広い知識を学ぶことができます。それらを通して、自分と違った知見を得ることで、自身の研究しているテーマをより深く掘り下げ、発展させることができると考えています。そして、その新たな知見は研究に利用するだけではなく、我々が日々生活していく中でとても重要なものになっていると思います。もし、進路に迷っている人がいれば、大変なこともあります。貴重な体験ができる大学院への進学をお勧めします。



工学研究科・電子工学専攻

超高真空成膜装置
(研究棟に設置されている装置の一つ)

研究領域／研究分野

研究分野としては

- (1)電子物性・材料・デバイス工学
- (2)情報通信工学
- (3)電子計測工学
- (4)情報処理工学
- (5)理論・数学

などがあります。以下は最近の修士論文の研究題目です。

- Sm(Fe-Co)-B薄膜の微細構造と磁気特性
- FePt薄膜の下地層による結晶構造と磁気特性の変化
- スパッタ法を用いて作製したMnFeGa合金薄膜の磁気特性
- 金属-Si系及び金属-Si酸化物系彗星状粒子の生成条件とその形態変化に関する研究
- 高誘電率ゲート絶縁膜を利用したガラス基板上の4端子poly-Si薄膜トランジスタの高性能化に関する研究
- ガラス基板上の4端子poly-GeSn薄膜トランジスタの開発とその応用に関する研究
- EMI測定用超広帯域折返しアンテナの設計・開発
- 再生可能エネルギー関連機器の電磁妨害波測定についての検討
- 独立成分分析を用いた波形抽出のEMCへの応用
- 球電極対におけるマイクロギャップESDに伴う過渡磁界の距離特性に関する研究
- 空間周波数が視覚探索時の視線応答に与える影響についての研究
- 軽量暗号用セキュアSBOS実装デバイスに対するサイドチャネル攻撃システムの開発と評価に関する研究
- ニューラルネットワークを用いた物理量や物理単位を含む文章に対する解析法に関する研究

担当教員・研究テーマ

■光物性

淡野 照義

超イオン導電体の遠赤外～紫外分光とコンピュータシミュレーション

■情報通信システム

石上 忍

電気電子・通信機器の電磁両立性及び計測法、アンテナに関する基盤技術の研究

■電気機械計測

小澤 哲也

電気機械計測の技術に関する特定の研究課題に対して、理論および実験の両面からの研究

■生体機能情報工学

加藤 和夫

大脳神経活動等の生体信号の計測と信号処理の研究、および医工学への応用

■群集流動情報工学

門倉 博之

群集流動のモデル化と人流シミュレーションの研究

■情報伝送工学

川又 憲

情報伝送工学および環境電磁工学に関連した各種テーマの研究

■機能材料

桑野 聡子

エネルギー資源を生産する触媒、電極などを安価な素材や手法で創製する。また、その物性の根源を解明する

■電子数理学

佐々木 義卓

コンピュータによる数値解析を通じた整数論的諸問題の研究

■計測情報工学

志子田 有光

先端の情報システムセキュリティに関するテーマや、教育工学に関するテーマの研究

■磁性材料学

嶋 敏之

磁性薄膜の作製・微細加工およびナノ構造等の評価を中心にナノテクを駆使した新物質・新材料の探索およびそれらの応用研究

■ナノ微粒子・薄膜物性

鈴木 仁志

ナノ粒子・薄膜作製と評価、主に無機物を対象としたナノ粒子の構造、相転移、反応性変化などの研究

■スピニエレクトロニクス

土井 正晶

超小型・省エネルギー無線通信システムの開発に向けた新しいスピニエレクトロニクスデバイスの応用研究

■半導体材料デバイス工学 原 明人

フレキシブルエレクトロニクス・ガラス上シートコンピュータ・3次元集積デバイスの実現に向けた半導体デバイスの研究

■空間情報学

物部 寛太郎

空間情報の利活用を目的として、空間的可視化による地域防災支援などの様々な分野での応用研究



電子ビームリングライター
(研究棟に設置されている装置の一つ)

環境建設工学専攻

社会から信頼される自律できる技術者を育成

詳しい情報はコチラ！



専攻の紹介

本専攻の教育目標は、環境と調和した高度な社会基盤の建設・維持を達成するために、社会から信頼される技術者を育成することです。未来に引き継ぐべき貴重な自然環境を継続しつつ、これまでに営々と蓄積してきた社会資本を創造し維持・管理する作業は、豊かな社会生活を守るために今後とも必要不可欠な仕事のひとつです。

これらの社会資本を支える人材を育成するために、本専攻の前期課程では、広い視野に立って学識を広めるとともに、志望する専門分野に関する高度専門技術の修得を目指し、後期課程では専攻分野の研究者・教育者として必要な研究能力、およびその基礎となる豊かな学識および高度専門知識の会得を目指しています。

大学院では少人数教育が基本であり、教員と大学院生の密接な関係に基づいて、日常生活における勉強指導やメンタルケア、高度専門知識の教授が行われます。またTA制度によって学部生への指導を通じたリーダー教育が行われ、これらは社会人としての素養の形成、および指導力を養う上で大きな効果をあげています。

近年は、大学院大学が増えています。このような社会趨勢に敏感になり、多くの学生が大学院に進学することを切に願っています。

理念・目的

地球および地域環境を保全しつつ人々の生活を豊かにする社会基盤を創造し、これまでに蓄積してきた社会資本を維持管理する営みを発展させるため、専門分野に関する学習・研究を通じて、社会人としての素養と倫理観を兼ね備えた創造性豊かな技術者を育成する。

教育目標

- ①建学の精神に基づき、社会人としての素養と倫理感を有する人格の形成をめざす。
- ②環境工学および建設工学に関連する広範な専門基礎知識と技術を着実に修得し、さらに専門分野の先端的な知識を学び、理解する。
- ③ある問題に対する研究を通して自らの力で情報を収集し、評価・分析し、対応策を模索して実践し、得られた結果を総括し、当該問題に対してよりよい方法を提案する。
- ④研究成果を公に発表することにより、技術者としてのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、プロジェクト管理能力などを修得する。なお、博士前期課程においては、広い視野に立って学識を深めるとともに、志望する専門分野に関する高度専門技術を修得させることをも目標とし、博士後期課程においては、専攻分野の研究者・教育者として必要な研究能力、およびその基礎となる広範な学識および高度専門知識とともに、社会人として必要とされる工学他分野の知識を修得させることをも目標としている。

教員からのメッセージ

環境建設工学専攻主任

はん よんひ
韓 連熙 教授



本専攻では、社会インフラの建設と維持管理、汚染された環境の浄化や水処理技術、建築・都市空間のデザインや再生可能エネルギーなど、土木、環境、建築の研究領域を専門的に学ぶことができます。具体的には、長大橋の地震応答解析、老朽化したコンクリート構造物の性状評価や非破壊検査、コンクリート構造物や地盤材料の応力解析、触媒を用いた水処理技術の開発や難分解性物質の微生物分解、建築設計理論の構築・解析、再生可能エネルギーの活用によるCO₂削減など、多様な分野を研究対象としております。それゆえ物事を多面的に捉え、幅広く見渡せる要素が身につく教育内容となっております。

前期課程では、上記のような多様な分野の専門を学ぶとともに、自主的に研究に取り組むことによって、積極性とリーダーシップが培われます。2年という短い期間ですが、社会が抱える問題に対して、理論的に考え取り組む力を身につけることができる貴重な時間です。

近年では大学院大学が主流となり、大学院修士が社会をリードする時代になっております。大手企業や研究分野での活躍を希望するのであれば、大学院は必須となります。本専攻では人間形成の礎を築き、修了後はリーダー的存在として社会貢献できる存在になれるよう院生の教育・指導を行っていきます。また大学院での研究活動に集中できるよう、奨学金やTA制度などの支援も充実しております。

修了生からのコメント

2021(令和3)年度
博士課程前期課程修了

たかぎ なな
高城 那菜 さん



私は建築デザイン研究室に所属しています。大学院の講義では、学部で学んできた建築の基礎知識をもとに、より実践的な内容を身に付けることができます。教授一人に対し、同じ専攻の大学院生数人の少人数体制で行われるため、発言がしやすく、疑問や興味を持ったことを深く追求できます。教授も院生も、時間の許す限り、時には講義時間をオーバーしてまで議論に付き合ってくれます。一回一回の講義の内容がより濃密になることが大学院のメリットの一つだと思います。また、学部の講義とは違い、一人または院生数人で協力し、院生が主導して作業をする場面が多々あります。そのため、学びたいことを自ら学べるチャンスが多くなります。さらに学会やコンペティションで自分が作った作品を見てもらえる機会も増えますし、見学会やインターンシップで進みたい分野を探せる時間も学部生の頃より増えます。そのため、今まではあまり学んでこなかった、知る機会がなかった分野と出合えることもあります。大学院は自分の専攻をより専門的に、より深く研究することができる場所ですが、研究がしたい人だけでなく、自分が本当にしたいことを探したいという人にとっても、大学院はとても良い環境だと思います。

| 研究領域／研究分野 |

環境建設工学専攻が専門とする研究分野を大きく分けると、

- (1) 構造力学・構造工学
- (2) コンクリート工学（建設材料学）
- (3) 地盤工学・防災工学
- (4) 環境・水理学
- (5) 都市環境・建築デザイン学
- (6) 建築計画学、建築史学

となります。最近の主な修士論文の題目を以下に示します。

- 旧宣教師館「デフォレスト館」の保存・活用に関する研究
- 東日本大震災における地震動及び津波がコンクリート構造物の耐久性に与える影響
- 多賀城市における建築物のエネルギー消費削減に関する調査研究
- BIMを用いたデフォレスト館の修繕・利活用計画策定と維持管理に関する研究
- タイ国コンケン地方の水害に伴う疾病、水質動向および村落の小規模水道の実態に関する調査研究
- 天然由来成分の抗酸化作用に関する実験研究
- ヒ素高蓄積植物モエジマシダ根圏での亜ヒ酸酸化における細菌の関与に関する研究
- 可視光応答型光触媒反応における水中ヒドロキシラジカルの生成に関する研究
- コンクリート製壁高欄の塩害に関する研究
- 懸濁型地盤改良材の浸透注入における改良体の一軸圧縮強さの推定
- 災害時の緊急架設橋を想定したパネル橋の構造最適化解体
- 砂の内部構造を考慮した弾塑性構成モデルの開発と検証
- コンクリートの弾性波速度の推定に影響を及ぼす因子に関する研究

担当教員・研究テーマ

■ 構造力学、非破壊検査 李 相勲

連続高架橋等離散系構造物における無限境界問題、衝撃弾性波法を応用したコンクリート内欠陥の可視化

■ 建築構造工学 井川 望

地震など様々な外力に対する各種建築物の挙動解析、地盤・基礎・上部構造の一体解析

■ 材料構造工学 石川 雅美

コンクリート構造物の初期応力・ひび割れ解析

■ 建築史学、文化財保存学 崎山 俊雄

我国近現代の建築意匠と計画技術に関する歴史的な研究、建築文化財の調査・分析ならびに保存・活用

■ 建築デザイン、建築計画学 櫻井 一弥

建築設計・デザイン実務と建築設計理論の構築・解析、ならびに建築空間の分析的批評

■ 建築設備・建築環境工学 鈴木 道哉

建築物の建設から解体に至るライフサイクルで使用されるエネルギーに関する調査研究、省エネルギーと再生可能エネルギーの活用により二酸化炭素の排出量を実質ゼロとする建築に関する研究

■ コンクリート劣化診断 武田 三弘

X線造影撮影を用いたコンクリートの性状評価、コンクリート床版の再劣化に関する研究、樁門に生じる初期欠陥の非破壊検査方法の開発

■ 耐震・防災工学 千田 知弘

FEM解析を用いた地盤変動時の橋梁の挙動把握、超弾性パラメータを用いた3次元FEM解析によるゴム支承の地震応答に関する研究

■ 建築計画、都市計画 恒松 良純

建築・都市空間における心理的影響と物理的要因に関する相関分析、および諸制度との比較検討

■ 構造工学、応用力学 中沢 正利

シザーズ構造体の力学理論及び展開・収納機構の大変形シミュレーション、緊急架設用パネル橋の最適構造について

■ 環境生物工学 中村 寛治

DNA分析技術による環境中の微生物の挙動把握、環境浄化のための特定細菌の野外利用

■ 環境化学 韓 連熙

促進酸化処理法を用いた水処理

■ 水工学 三戸部 佑太

海浜変形、津波による土砂輸送・地形変化、画像計測技術の開発および応用した実験・現地観測

■ 環境微生物工学 宮内 啓介

難分解性有機化合物分解細菌の解析、生物を用いた土壌・水汚染の浄化法の開発

■ 地盤工学 山口 晶

砂地盤の液状化、粘性土のせん断破壊、地盤の地震時挙動、注入による液状化対策工法

人間情報学専攻

多彩なテーマで院生と教員が活発に議論

詳しい情報はコチラ!



専攻の紹介

人間情報学研究科は教養学部を母体とする大学院であり、ダイナミックに変容する現代社会をさまざまな切り口から捉え、学際性の高い実践的教育研究をおこなっています。

前期課程の大学院生は、社会情報（社会学、教育学、人文地理、地域構想系）、行動情報（心理学、教育学、体育学系）、生命・情報（コンピュータ科学、数学、生体情報学、情報科学、環境科学系）のいずれかを主たる研究領域とし、また自然科学系、人文科学系の諸科学から、基礎的な分野についての幅広い支援を受けて研究をおこなっています。その核となるのは人間情報学演習であり、多彩な研究分野のスタッフからなる教員チームが指導にあたり、学際的な研究を実のあるものに行っています。

後期課程では主として人間情報学演習と論文指導により研究を深めますが、ここでも複数の教員からなるスタッフが様々な角度から学際的な指導をおこないます。

本研究科のもうひとつの特色は、社会人にも広く門戸を開いている点にあります。社会の現場における様々な課題を研究テーマとし、より実践的な研究がおこなわれます。そのため、現役の社会人が履修しやすいよう土曜日を活用するなど、柔軟な時間割が組まれます。院生には大学、研究所、学校等に在職している研究者や教育者などに加え、会社員や公務員、さらには現役を退いてから入学した方や主婦なども含まれるため、演習などでは院生と教員が多様な視点から活発な議論を展開しています。

理念・目的

人間にとって真に望ましい情報化社会の創造を目的として、人間情報学の高い専門性の修得とともに人間ならびに人間を取り巻く種々の環境への深い洞察力を涵養し、幅広い視野から実社会の諸問題の解決に学際的、独創的に貢献する専門家を育成する。

教育目標

- ①学際性の重視：社会情報学、行動情報学、生命・情報学のカリキュラムに基づいて、多様な専門領域の有機的連携を重視した学際性の高い教育研究を行う。
- ②社会貢献：望ましい情報化社会の実現に貢献する教育研究機関として、社会の要望に応える。
- ③知の実践的統合：地域社会の諸課題に取り組む社会人など、幅広い経験や背景を持つ者も大学院学生として受け入れ、知の実践的統合を促進する。

教員からのメッセージ

日本語教育学担当

さとう まき
佐藤 真紀 准教授

今私たちが生きている社会は、日々刻々と変化し、昨日まで当然だと思っていたことが当然ではなくなるようなことが起こっています。こうした状況の中、人間そのものやそれを取り巻く環境について一つずつ紐解いていき、実社会の問題解決に貢献していく、そして、そのために必要な広く深い知識を身につけ、実践と理論を往還し、さらに独創的な発想を磨いていく、それが「大学院」という場所だと思います。大学院では、自分が見つけた問題意識を解決すべく、とことん探求していくことが可能です。

私はそれを、院生達と「日本語教育学」という視点から行っています。日本語教育学とは、日本語を母語としない人に対し、言語として日本語を教えることを追求する学問です。そのためには、日本語教育や日本語について学ぶことはもちろんのこと、多言語多文化共生について学ぶことも必要ですし、言語学、教育学、心理学、文化人類学等、多くの隣接領域について学ぶことも必要です。その点、人間情報学研究科の教員やその研究テーマは非常に多彩で、社会情報学、行動情報学、生命・情報学の領域を主軸とした各分野からの指導を受けることができます。また、複数の教員が連携することで、複合的な視野のもと学際的な研究が可能です。

教員だけではなく、大学院には様々なバックグラウンドを持つ院生達もいます。学部4年間で学びきれなかったことを更に学びに来る人、これまでとは異なる新たな分野に飛び込んでくる人、新しい夢を見つけ専門知識を学びに来る人、一度社会に出て現場を知り新たな問題意識を持って学び直して来る人…その共通点は、「学び続けたい」という気持ちです。そのような人達と議論をし、共に学ぶことは、非常に刺激的で、必ず皆さんの視野をグッと広げ、新たな世界を見せてくれると思います。「研究」という武器を手に、実社会に貢献できる専門家を目指したい方、ぜひ本専攻科で、ユニークな教員や院生達と共に学びましょう。

大学院生からのコメント

人間情報学専攻
博士課程前期課程2年たけうち ちひろ
竹内 稚尋さん

私は、学部3年生の頃から、日本語教員になりたいと考えてきました。きっかけは、学部で日本語教育に関わるゼミに所属し、そのゼミのプロジェクトであるEPA介護福祉士候補生への学習支援に携わったことです。その活動を通して、彼らの日本語学習に興味を持ち、さらに理解を深めたいと考え、大学院への進学を決意しました。

そして、現在は、介護福祉に携わる外国人労働者への日本語教育について研究をしています。今日の日本では、介護施設で勤務する外国人が増加しているものの、彼らへの日本語学習支援は、十分ではないと言われています。そこで、私の研究が、少しでも彼らに寄り添い、教育現場に貢献できるものになることを目指しています。

大学院の講義は、先生と数名の大学院生という少人数クラスであるため、積極的に意見を交換しながら議論を進めることができます。それだけでなく、自身の専門以外の他分野の講義もカリキュラムに含まれているため、それらの知識や学びを幅広く得ることができます。そこで得たものは、自身の研究を考える際のヒントにもなっています。また、自分がまとめたものを他の院生達の前で発表する講義が多いため、私にとって大切な経験になっています。

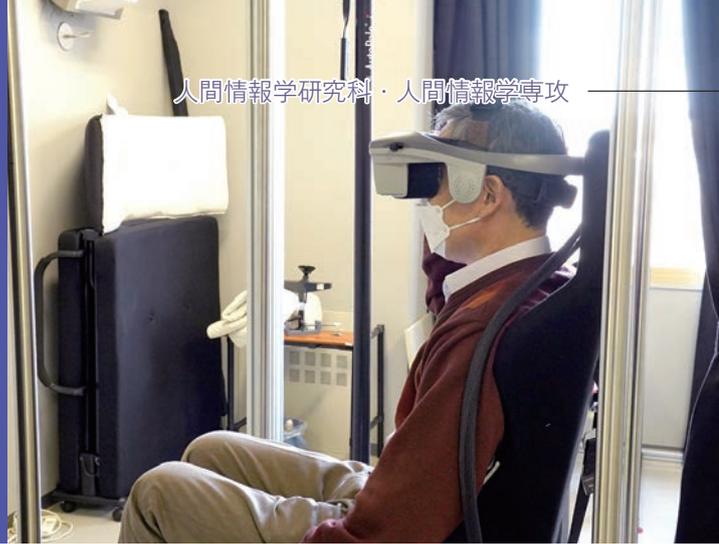
大学院生活では、仲間や教授、環境から多くの良い刺激を受けながら日々過ごすことができています。これらの刺激を大切に、これからも研究を進めていきたいと思っています。

公認心理師科目を設置しました



離れると「公認心理師」、近づくと「人間情報学」の文字がみえます。

Ref: Oliva, A., Torralba, A., & Schyns, P. G. (2006). Hybrid images. ACM Transactions on Graphics (TOG), 25(3), 527-532. <https://doi.org/10.1145/1141911.1141919>



研究領域／研究分野

行動情報学領域

- ・心理に関わる分野
行動情報心理学、適応行動学、社会心理学、組織心理学、知覚心理学、認知心理学、健康行動学、臨床健康心理学、教育工学
- ・スポーツに関わる分野
スポーツ科学、スポーツ生理学、健康体力統計学、運動免疫学

社会情報学領域

- ・社会に関わる分野
応用社会学、情報社会学、社会教育学、社会情報システム論、生活情報システム論、社会統計学
- ・地域に関わる分野
地域情報学、地域社会論、地域政策論、地域産業論、地域福祉論

生命・情報学領域

- ・生命とコンピュータ科学に関わる分野
応用情報学、インターフェイス、コンピュータシステム演習、マルチメディア情報処理、コンピュータネットワーク、生体情報学、生体情報処理系、記号処理論、言語情報処理論、計算と論理、数理情報科学、フラクタル、複雑系の科学、数理統計学、代数学、幾何学、データベース
- ・環境に関わる分野
大気・水環境論、地表環境論、生態学、地球環境史、地球環境論

担当教員・研究テーマ

■代数幾何学

代数曲面の構造と不変量の研究

石田 弘隆

■産業・組織心理学

従業員の精神的健康とモチベーション

井川 純一

■人文地理学

都市や産業の地域構造に関する研究

岩動 志乃夫

■地形学

過去約2万年間の地形発達史、高解像度地形情報を用いた地形変化解析

伊藤 晶文

■情報工学

コンピュータ設計などを支援するソフトウェア研究

伊藤 則之

■教育工学

情報技術を用いた授業設計、学習環境のデザインに関する研究

稲垣 忠

■数学

エルゴード理論と確率過程

岩田 友紀子

■人文地理学

東南アジア、特にジャワ農村の農村生計と自然資源管理についての研究

遠藤 尚

■社会福祉学、障害者福祉、NPO・ボランティア活動

わが国における福祉市民活動の現状と課題

大澤 史伸

■応用健康科学、発達心理学

子どもの生活習慣の評価とそのヘルスプロモーションに関する研究

岡崎 勲造

■数学

複素力学系

片方 江

■教育社会学、社会統計学

健康格差、高等教育、性行動、計量歴史社会学

片瀬 一男

■認知心理学

日常行動の認知心理学的分析

加藤 健二

■臨床心理学

不安障害・うつ病に対する認知行動療法

金井 嘉宏

■計量社会学

不平等・社会階層に関する計量的研究

神林 博史

■理論言語学

生成文法理論に基づいた自然言語の統語論と意味論

岸 浩介

■文化社会学

メディア文化・産業の調査研究

小林 信重

■教育哲学

教育の意味と起源に関する人間学的研究

紺野 祐

■情報科学

ネットワーク分散システム

坂本 泰伸

■運動免疫学

運動やストレスが免疫機能に及ぼす影響と健康

坂本 謙

■農村社会学、理論社会学

①農村における高齢者の生活実態に関する研究
②贈与論の理論的視点からの地域社会学

佐久間 政広

■視覚心理学

人間の興行知覚の解明

櫻井 研三

■数学

楕円曲線の数論

佐藤 篤

■日本語教育学

外国につながる子どもの言語教育

佐藤 真紀

■臨床健康心理学

慢性疾患を有する者の心理に関する研究

東海林 渉

■情報科学

自律分散システム論、群ロボットシステム

菅原 研

■福祉社会学

日本における外国人ケアワーカーの介護労働と地域生活に関する研究

菅原 真枝

■情報科学

分散環境を活用した創造性支援

杉浦 茂樹

■数理社会学

集合行動、メディアコミュニケーションのネットワーク分析

鈴木 努

■家族社会学

既婚女性の出生・就業行動

仙田 幸子

■スポーツ科学

健康体力統計学、身体活動および運動パフォーマンスの測定・評価方法の研究

高橋 信二

■情報科学

エージェント指向IoT(Internet of Things)システムの研究

高橋 秀幸

■情報科学

機械学習とゲーム人工知能

武田 敦志

■スポーツ科学

運動生理学、特殊環境下における運動時の呼吸循環機能の研究

千葉 智則

■文化人類学

東南アジア諸社会および現代日本社会の文化人類学的研究

津上 誠

■生物情報学、感覚受容

生物における情報の受容機構の解明

土原 和子

■教科教育学

多文化共生を目指すシティズンシップ教育についての理論的研究

坪田 益美

■発達心理学

大学生のキャリア選択における動機づけの役割

萩原 俊彦

■社会教育学

公民館経営診断技法の研究

原 義彦

■日本語教育・日本語学

日本語音声教育に関する研究

房 賢嬉

■臨床発達心理学

攻撃性、衝動性等の発達特性の理解と支援者支援

平野 幹雄

■植物生態学・景観生態学・環境教育

生態系評価に基づく“ヒトと自然の持続可能なかわり”に関する研究

平吹 喜彦

■社会心理学

交渉における認知や感情の働き

福野 光輝

■数学

微分方程式の解の挙動と構造の解明

星野 真樹

■生物情報科学

神経ネットワークによる情報処理、情報表現

牧野 悌也

■地域福祉学

財政分析による民生費を中心とした市町村合併効果の測定

増子 正

■生体情報学

生物音響学

松尾 行雄

■情報科学

自然言語処理技術のウェブサービスへの応用

松本 章代

■天文学

X線天文衛星を利用したブラックホールなど高エネルギー天体の観測

村上 弘志

■哲学

アリストテレスを中心としたギリシア哲学、現代分析哲学

文 景楠

■自然地理学

自然環境の保護・保全

目代 邦康

■経済地理学

先端技術産業の地域的立地についての研究

柳井 雅也

■津波工学、海岸工学

津波発生リスクと地域の脆弱性評価に関する研究

柳澤 英明

■アジア経済論

アジア諸国における雇用創出に関する研究

楊 世英

最近の主な進路 就職

英語英文学	<ul style="list-style-type: none"> ◎島根大学 ◎流通経済大学 ◎日本大学工学部 ◎三重大学 ◎海上保安大学校 ◎岩手医科大学 ◎八戸工業大学 ◎北見工業大学 ◎山形県立米沢女子短期大学 ◎秋田工業高等専門学校 ◎福島工業高等専門学校 ◎宮城県教員 ◎岩手県教員 ◎福島県教員 ◎東京都教員 ◎古川学園高等学校 ◎東北学院中学・高等学校 ◎東北学院榴ヶ岡高等学校
ヨーロッパ文化史	<ul style="list-style-type: none"> ◎静岡大学 ◎仙台白百合女子大学 ◎米子工業高等専門学校 ◎NTT-ME東北 ◎日本通運(株) ◎(株)農協観光 ◎尚絅学院女子中学校・高等学校 ◎東北大学病院 ◎公務員(宮城県内) ◎公務員(山形県内) ◎紀伊国屋書店 ◎陸上自衛隊 ◎凸版印刷(株) ◎音楽の友社 ◎損保ジャパン ◎JTB北海道 ◎北杜学園 ◎東北大学金属材料研究所 ◎(株)NHC など
アジア文化史	<ul style="list-style-type: none"> ◎(独)防災科学技術研究所 ◎公務員(宮城県内) ◎公務員(福島県内) ◎公務員(岩手県内) ◎公務員(秋田県内) ◎公務員(青森県内) ◎北海道博物館 ◎東北歴史博物館 ◎岐阜県立博物館 ◎八戸市立博物館 ◎もりおか歴史文化館 ◎新潟市歴史博物館 ◎仙台市教育委員会文化財課 ◎大崎市教育委員会 ◎石巻市教育委員会 ◎気仙沼市教育委員会 ◎米沢市教育委員会 ◎遠野市教育委員会 ◎蔵王町教育委員会 ◎二戸市教育委員会 ◎公務員(北海道) ◎公務員(栃木県内) ◎(公財)山形県埋蔵文化財センター ◎(財)秋田県埋蔵文化財センター ◎朝日新聞社 ◎東北高等学校 ◎盛岡大学 ◎奥山ボーリング(株) ◎常盤木学園高等学校 ◎(株)東京放送 ◎東北学院大学 など
経済学	<ul style="list-style-type: none"> ◎岩手県立大学宮古短期大学部 ◎高校教員 ◎信用金庫 ◎公務員(宮城県内) ◎福祉施設職員 など
経営学	<ul style="list-style-type: none"> ◎法人並びに個人税理士事務所(含む自営) ◎個人会計事務所(含む自営) ◎宮城県教員 ◎公務員(宮城県内) ◎東北生活文化大学高等学校 ◎セブンイレブン・ジャパン ◎MEDICINE CHEST ◎長野経済短期大学 ◎琉球大学 ◎(株)植松商会 ◎東北学院大学 など
法学	<ul style="list-style-type: none"> ◎税理士事務所 ◎会計事務所 ◎(株)東北エレクトロンAT ◎公務員(宮城県内) ◎公務員(福島県内) ◎三菱電機(株) ◎三井住友海上火災(株) ◎(株)きらやか銀行 ◎(株)日本不動産研究所 ◎山形地方裁判所 ◎東北工業大学高等学校 ◎宮城県教員 ◎仙台国税局 ◎JA古川 ◎日新火災海上保険(株) ◎積水ハイム など
機械工学	<ul style="list-style-type: none"> ◎宮城県教員(高校・工業) ◎太平洋セメント(株) ◎プライムアースEVエナジー(株) ◎(株)ディスコ ◎(株)フジクラ ◎(株)タンガロイ ◎東北電力(株) ◎いすゞ自動車(株) ◎東京エレクトロン(株) ◎TDK(株) ◎ミネベアアミツミ(株) ◎凸版印刷(株) ◎THK(株) ◎東日本旅客鉄道(株) ◎大和ハウス工業(株) ◎月島環境エンジニアリング(株) ◎旭テック(株) ◎(株)NBCメッシュテック ◎(株)アブクマ
電気工学	<ul style="list-style-type: none"> ◎東北電力(株) ◎(株)ケーヒン ◎(株)トーキン ◎日本TI(株) ◎美和ロック(株) ◎松下電器産業(株) ◎日立マクセル(株) ◎(株)仙台ニコン ◎(株)メイテック ◎日本化薬(株) ◎(株)パナソニックモバイル ◎東北計器工業(株) ◎東日本旅客鉄道(株) ◎北海道電力(株) ◎通研電気工業(株) ◎(株)NTTデータMSE ◎(株)日立パワーソリューションズ ◎(株)きんでん ◎(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所 ◎(株)東芝 など
電子工学	<ul style="list-style-type: none"> ◎株式会社トーキン◎日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 ◎東芝デベロップメントエンジニアリング株式会社 ◎株式会社アルバック ◎株式会社ダイドー電子 ◎アルプスアルパイン株式会社 ◎株式会社エヌ・ティ・ティ・データ東北 ◎凸版印刷株式会社 ◎キオクシア岩手株式会社 ◎日本原燃株式会社 ◎一般社団法人日本電機工業会 ◎キャノンアールバ株式会社 ◎株式会社OKIソフトウェア ◎公務員(仙台市) ◎TDK株式会社 ◎株式会社ミラプロ ◎進工業株式会社 ◎SOLIZE株式会社 ◎株式会社Kokusai Electric ◎古川エヌ・デー・ケー株式会社 ◎インフィニティテクノロジー株式会社 ◎株式会社日立産機システム ◎株式会社日立情報通信エンジニアリング ◎国立研究開発法人産業技術総合研究所
環境建設工学	<ul style="list-style-type: none"> ◎東日本旅客鉄道(株) ◎鹿島建設(株) ◎大成建設(株) ◎清水建設(株) ◎佐藤工業(株) ◎(株)竹中土木 ◎仙建工業(株) ◎(株)日本港湾コンサルタント ◎新菱冷熱工業(株) ◎(株)日水コン ◎(株)復建技術コンサルタント ◎いであ(株) ◎(株)日建技術コンサルタント ◎セントラルコンサルタント(株) ◎(株)水機テクノス ◎公務員(国土交通省) ◎日鉄テックスエンジ(株) ◎(株)ネクスコ・エンジニアリング東北 など
人間情報学	<ul style="list-style-type: none"> ◎公務員(宮城県内) ◎公務員(山形県内) ◎公務員(青森県内) ◎公務員(多摩市役所) ◎仙台白百合女子大学 ◎山形大学医学部 ◎日本赤十字看護大学 ◎日本大学文理学部 ◎東北学院大学 ◎宮城県教員 ◎私立明成高校教員(非常勤) ◎仙台商工会議所 ◎仙台ランゲージスクール ◎(株)クロスキャット ◎七十七コンピュータサービス(株) ◎(株)TKC ◎esriジャパン(株) ◎(株)フォーレイ ◎バイオニアシステムテクノロジー(株) ◎東日本旅客鉄道(株) ◎(株)トリプルアイズ など

[修業年限及び最長在学年限]

博士課程前期課程(修士課程)の標準修業年限は2年、博士課程後期課程の標準修業年限は3年であり、最長在学年限については、所定の手続きをして在学延長が認められると、博士課程前期

課程(修士課程)は4年まで、博士課程後期課程は6年まで在籍することができます。

[課程の修了要件]

博士課程前期課程(修士課程)の修了要件は、2年以上在学し、研究科で定めた単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することを要します。

博士課程後期課程の修了の要件は、3年以上在学し、研究科で

定めた単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することを要します。

なお、優れた研究業績を上げた学生については、研究科の定めるところにより、在学期間を短縮して修了することができます。

[授 業(昼夜開講制)]

授業は、1ヶ年の学修期間を前期と後期の2期に分け、それぞれ15週の授業が行われます。大学院設置基準第14条による教育方法の特例〔昼夜開講制〕を実施しており、授業時間割をつぎ

のように定め、昼夜共通開講方法による柔軟な授業等を行っています。

月～金曜日

時 限	第1時限目	礼拝時間	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目	第7時限目
時 間	8:45～ 10:15	10:15～ 10:45	10:45～ 12:15	13:15～ 14:45	15:00～ 16:30	16:45～ 18:15	18:25～ 19:55	20:05～ 21:35
⏟ 昼間授業時間						⏟ 夜間授業時間		

土曜日のみ

時 限	第1時限目	礼拝時間	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目	第7時限目
時 間	8:45～ 10:15	10:15～ 10:45	10:45～ 12:15	13:15～ 14:45	15:00～ 16:30	16:45～ 18:15	18:25～ 19:55	20:05～ 21:35
⏟ 昼間授業時間				⏟ 昼夜共通授業時間帯				

- (1) 月曜日から金曜日までの第6時限目から夜間授業時間とします。
 (2) 土曜日は、午後の第3時限目から第7時限目までを昼夜共通授業時間帯とします。ただし、週5日制の社会人は全時限を昼夜共通時間とすることも可能です。

- (3) 授業は原則として昼夜共通の開講方法とし、一般及び社会人学生に対し共通の講義・演習を行うものとします。
 (4) 社会人学生の昼間における履修及び一般学生の夜間における履修も可能です。

[学 位]

本大学院を修了した者は、東北学院大学学位規程の定めるところにより、次の学位が授与されます。

研究科	専 攻	学 位	
文学研究科	英語英文学専攻	修士(文学)	博士(文学)
	ヨーロッパ文化史専攻	修士(文学)	博士(文学)
	アジア文化史専攻	修士(文学)	博士(文学)
経済学研究科	経済学専攻	修士(経済学)	博士(経済学又は商学)
経営学研究科	経営学専攻	修士(経営学)	—————
法学研究科	法律学専攻	修士(法学)	博士(法学)
工学研究科	機械工学専攻	修士(工学)	博士(工学)
	電気工学専攻	修士(工学)	博士(工学)
	電子工学専攻	修士(工学)	博士(工学)
	環境建設工学専攻	修士(工学)	博士(工学)
人間情報学研究科	人間情報学専攻	修士(学術)	博士(学術)

[教育職員免許状の取得]

既に中学校教諭1種(1級普通)免許状・高等学校教諭1種(2級普通)免許状を取得している者又は所要資格を有している者、上級免許状への切り替えを希望する者で、本大学院の博士課程前期課程において、基礎資格を得るとともに、教育職員免許法及び同法施

行規則に定める所要の単位を修得した者は、次の中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を得ることができます。

研究科	専攻	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
文学研究科	英語英文学専攻	英語	英語
	ヨーロッパ文化史専攻	宗教・社会	宗教・地理歴史
	アジア文化史専攻	社会	地理歴史
経済学研究科	経済学専攻	社会	公民
経営学研究科	経営学専攻	社会	公民・商業
法学研究科	法律学専攻	社会	公民
工学研究科	機械工学専攻	—	工業
	電気工学専攻	—	工業
	電子工学専攻	—	工業
	環境建設工学専攻	—	工業
人間情報学研究科	人間情報学専攻	社会・数学	公民・数学・情報

[学生支援]

●ティーチング・アシスタント(T・A)制度について

本大学院は、大学院生に「将来教員・研究者になるためのトレーニング機会の提供」及び「経済的支援(奨学)」を目的として「ティーチング・アシスタント(T・A)」制度を設けています。

T・Aは、授業担当教員の指示に従い、授業等の補助を行うことを職務とし、次の業務を行います。

【博士課程後期課程の学生】

- ◎博士課程前期課程・修士課程又は学部の実験・実習、コンピュータ演習(実習)
- ◎博士課程前期課程・修士課程又は学部の授業に関わる教育的補助業務

【博士課程前期課程・修士課程の学生】

- ◎学部の実験・実習、コンピュータ演習(実習)
- ◎学部の授業に関わる教育的補助業務

●長期履修制度

◎長期履修制度とは

本大学院では、職業を有する方や、育児や介護などで研究時間の制約を受ける方などを対象に、入学時の環境に応じて在学年限の範囲内(博士課程前期課程・修士課程4年、博士課程後期課程6年)で指導教員と相談のうえ、1年単位で長期履修期間を定め、計画的に教育課程を履修し修了することが可能となる制度を実施しています。また長期履修期間の変更も1回のみ可能です。

◎いつ申請するのか

新年度の授業開始1ヶ月前までに申請書に記入して申請してください。長期履修の適否が決まり次第通知します。

◎学納金はどうなるのか

学納金は標準修業年限(博士課程前期課程・修士課程2年、博士課程後期課程3年)分に相当する学生納付金を、長期履修期間に応じて分割納付することとなります。

長期履修を希望する方は、学務部教務課にお問い合わせください。(022-354-8202)

長期履修制度の学納金(文学・経済学・経営学・法学研究科の場合)

単位:円

区分	各年度の学納金納付額			修了までの学納金総額
一般学生 (標準修業年限2年)	1年目 (847,000)	2年目 (847,000)		1,694,000
長期履修学生 (履修期間を4年とした場合)	1年目 (566,000)	2年目 (564,000)	3年目 (564,000)	1,694,000

※別途、入学金(初年度のみ)、諸会費の納入が必要となります。

詳しくは2024年度「大学院学生募集要項」をご参照ください。

本学学生納付金は、スライド制を導入しているため、在学期間中(翌年度以降)に改定されることがあります。

●特別聴講学生制度

この制度は、各大学間の学術的提携、交流を促進するために設けられ、大学院学生が研究上の必要から自己の属する大学院以外の大学院授業の履修を希望するとき、大学院間の協定により所属大学院より相手大学院に委託される制度です。現在、本大学院で上記制度を実施している研究科、専攻、相手校は次のとおりです。

◎文学研究科 英語英文学専攻………青山学院大学、法政大学、上智大学、明治大学、明治学院大学、日本女子大学、東京女子大学、立教大学、聖心女子大学、東洋大学、津田塾大学

◎法学研究科 法律学専攻………北海学園大学特別聴講学生として修得した単位は、10単位を越えない範囲で修了の単位とすることができます。

各種補助制度

- ◎研究科・専攻活動補助……各研究科・専攻単位での活動への補助(スポーツ大会など)
- ◎機関誌発行補助……会報、ゼミナールなどの発行補助

- ◎ゼミナール合宿補助……ゼミナールなどの合宿研修補助
- ◎学会参加補助……国内外で開催される学会への参加(発表・出席)補助
- ◎調査・研究、資料収集活動補助……専攻分野の調査・研究、資料収集活動のための補助

[奨学金制度]

1. 日本学生支援機構貸与奨学金

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的理由のため修学困難な学生に対し、学資を貸与して教育の機会均等をはかり社会の健全な発展に尽くすことを目的として、学業成績、家庭の経済状況(修学困難な程度)・人物等について審査・選考を行い、学長の推薦をもとに日本学生支援機構が採用を決定します。予約採用(入学前に募集)と定期採用(入学後4月に募集)があります。

種 別		貸 与 月 額
第一種 奨学金	博士課程前期	50,000円または88,000円
	博士課程後期	80,000円または122,000円
第二種 奨学金	博士課程前期	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円 ・150,000円の中から希望月額を選択する。
	博士課程後期	

〔「第一種奨学金」の貸与を受けても、なおその修学を維持することが困難な場合は、併せて「第二種奨学金」の貸与を希望(出願)することができます。〕
※「第二種奨学金」は、卒業後年利3%を上限として利子が付きま(在学中は無利子)。

2. 東北学院大学給付奨学金

全学年の学部学生及び大学院学生で学業成績、人物ともに優良であり、経済困窮度が高く、修学困難な学生が対象です。半期150,000円、年間最大300,000円が給付されます。

給付期間は採用された学期となり、前期と後期のどちらも申請し受給することができます。次学期も給付希望する場合は、新たに出願し、審査・選考を受けます。

3. 東北学院大学緊急給付奨学金

全学年の学部学生及び大学院学生で家計支持者の死亡、疾病、失業(定年退職を除く)等により家計状況が急変して修学困難な学生が対象です。

給付額は当該学期授業料相当額です。家計が急変した事由が発生したときから、1年以内である場合に申込可能です。在学中1回のみ給付となります。

4. 地方公共団体奨学金・民間育英団体奨学金

本学で募集推薦するものと各教育委員会・各団体に直接申し込むものがあります。

申込希望者は、大学ホームページまたは学内掲示板を確認し奨学金担当窓口に出るか、各団体に直接問い合わせてください。

本大学院の沿革

- 昭和39年4月 ▶ 文学研究科英語英文学専攻修士課程設置
- 昭和40年4月 ▶ 経済学研究科財政金融学専攻修士課程設置
- 昭和41年4月 ▶ 文学研究科英語英文学専攻博士課程設置、工学研究科応用物理学専攻修士課程設置
- 昭和42年4月 ▶ 経済学研究科財政金融学専攻修士課程を同経済学専攻修士課程に改組
- 昭和43年4月 ▶ 経済学研究科経済学専攻博士課程設置、工学研究科応用物理学専攻博士課程設置
- 昭和46年4月 ▶ 工学研究科機械工学専攻・電気工学専攻修士課程設置
- 昭和49年4月 ▶ 工学研究科機械工学専攻・電気工学専攻博士課程設置
- 昭和50年4月 ▶ 法学研究科法律学専攻修士課程設置
- 昭和51年4月 ▶ 文学・経済学・工学研究科を博士課程(前期・後期課程に区分)とする。
- 昭和54年4月 ▶ 法学研究科法律学専攻に博士後期課程を増設し修士課程を博士前期課程と改称
- 平成 2年4月 ▶ 工学研究科に土木工学専攻修士課程増設
- 平成 4年4月 ▶ 工学研究科土木工学専攻博士後期課程を増設し修士課程を博士前期課程と改称
- 平成 6年4月 ▶ 人間情報学研究科人間情報学専攻修士課程設置

- 平成 8年4月 ▶ 人間情報学研究科人間情報学専攻博士後期課程を増設し修士課程を博士前期課程と改称
- 平成 9年4月 ▶ 文学研究科にヨーロッパ文化史専攻・アジア文化史専攻修士課程増設
- 平成11年4月 ▶ 文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程及びアジア文化史専攻博士後期課程を増設し、同専攻修士課程を博士前期課程と改称
- 平成14年4月 ▶ 経済学研究科に経営学専攻修士課程増設
- 平成16年4月 ▶ 法務研究科法実務専攻専門職学位課程設置
- 平成21年4月 ▶ 経営学研究科経営学専攻修士課程設置
- 平成22年4月 ▶ 工学研究科電子工学専攻修士課程を設置、同土木工学専攻を同環境建設工学専攻に改称
- 平成24年4月 ▶ 工学研究科応用物理学専攻博士課程を廃止、同電子工学専攻修士課程を博士課程に課程変更
- 平成26年4月 ▶ 法務研究科法実務専攻の学生募集を停止
- 平成28年3月 ▶ 法務研究科法実務専攻の廃止

キャンパス所在地MAP

土樋キャンパス
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL.022(264)6411



- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 文学研究科 | 経済学研究科 | 法学研究科 |
| ●英語英文学専攻 | ●経済学専攻 | ●法学専攻 |
| ●ヨーロッパ文化史専攻 | 経営学研究科 | |
| ●アジア文化史専攻 | ●経営学専攻 | |

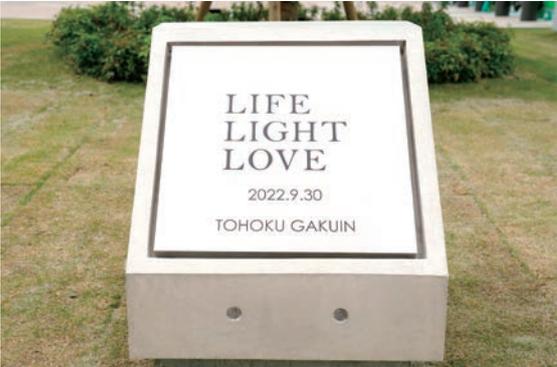
- JR仙台駅から徒歩約20分
- 地下鉄五橋駅(東北学院大学前)から徒歩約5分



五橋キャンパス
〒984-8588 仙台市若林区清水小路 3-1 TEL.022(354)8202

仙台市中心部に新キャンパス誕生。

泉キャンパスと多賀城キャンパスを集約し、「五橋キャンパス」を創設。伝統ある土樋キャンパスと一体的となった「ワンキャンパス」として2023年4月から供用開始。



- | | |
|--------------|-----------------|
| 工学研究科 | 人間情報学研究科 |
| ●機械工学専攻 | ●人間情報学専攻 |
| ●電気工学専攻 | |
| ●電子工学専攻 | |
| ●環境建設工学専攻 | |

- JR仙台駅から徒歩約15分
- 地下鉄五橋駅(東北学院大学前)に直結

● 大学院に関することについては、下記へお問い合わせください。●

東北学院大学 教務課(大学院係)

〒984-8588 仙台市若林区清水小路 3-1
TEL.022-354-8202

E-mail:daigakuin@mail.tohoku-gakuin.ac.jp